

サレジオ工業高等専門学校
総合メディアセンター報
Reports of the Media Center

第 9 号

特集「新たな気づきの広がりがもたらす創造性」

Mar. 2021
Media Center, Salesian Polytechnic

巻 頭 言

総合メディアセンター長を務めて二年間がたちました。この二年間はPC教室やネットワーク設備の更改等の情報システムの利便性向上を図り、また図書館の一般開放を実施する等、本センターの教職員が一丸となって様々な案件に対処して参りました。その一方で、総合メディアセンター報も第9号を発刊することができました。ご協力下さった教職員および学生にこの場を借りて厚く感謝いたします。

特集のテーマは「新たな気づきの広がりをもたらし創造性」です。読者の皆様が記事をお読み下さり、ご自身の創造性を高めていくことができればという思いを込めております。

一般記事について見ていきます。まずは一般教育科の中根先生にご寄稿頂きました。アフォーリズムという「短いながらも真実を突く言葉」を解説されています。SNSで大量の意味のない言葉を消費する現代人にとって深く考えさせられる内容です。一般教育科の神戸先生は「高専教育における哲学対話の重要性」について記事をお書き下さいました。

新任の先生方のご専門を紹介頂く記事をお寄せ下さいました。情報工学科の須志田先生の記事は、植物に見られる造形美が実は数式で説明できるという解説です。一般教育科の小林先生は、物質が流れるときの幾何学模様の現象について概観しています。この二つの記事は身の周りにある自然現象にも法則があるという興味深い内容になっていますので、学生の皆さんには是非ともお読み頂きたいと思います。

今回は職員の方の記事も掲載しています。教務学生課の奥山様は掃苔という著名人のお墓参りをご寄稿頂きました。また、保健室の杉山先生は杉並校舎について旧育英高専の懐かしい古き良き時代を感じさせるコラムをお届け下さいました。

連載コラムとしては「博物館探訪」と「図書館の本棚から」を掲載しました。博物館探訪は二本立てになっており、台湾と横浜を訪れています。現地の情景が伝わってくる文章であり、実際に自分で訪問しているように感じられます。また、電気工学科の米澤一孝先生からは「靖国神社のモニュメント」を紹介するコラムを寄稿して頂きました。靖国神社に行かれたことのある方は多いでしょうが、その歴史についての再発見があると思います。

総合メディアセンター報の発刊も第9号まで伸ばしてきました。これまで本誌は読者の皆さまと本センターの橋渡しを担って参りました。特集テーマを通じてメディアの可能性を追求してきました。また、本校の情報システムの構築や更改の技術解説も行き、情報技術の啓蒙活動にも力を入れました。これからも世の中のメディアや技術の進化に対して、それらを皆様にお伝えしていくという重要な役割の一端を負っていく所存であります。

2020年3月17日(2021年2月19日再受付)

総合メディアセンター長

佐藤 豊

も く じ

総合メディアセンター報 第9号

ページ

巻頭言	総合メディアセンター長 佐藤 豊	1
特集 「新たな気づきの広がりがもたらす創造性」		
ショーペンハウアーの『読書について』が持つ現代性	一般教育科 中根 弘之	4
植物に見られる螺旋模様とフィボナッチ数	情報工学科 須志田隆道	7
高専教育における「哲学対話」の広がりとその可能性	一般教育科 神戸和佳子	9
熱対流・流体力学的不安定性現象のあれこれ	一般教育科 小林 和也	11
私の掃苔録 ～静岡県・富士霊園～	教務学生課 奥山 貴之	15
「東京焼盡」とラジオ放送	一般教育科 山館 順	17
転生系ライトノベルについて	一般教育科 山館 順	19
台湾の図書館、文学館	一般教育科 山館 順	21
報告		
総合メディアセンター主催講演会報告 高専生と選挙 ～選挙に行くとか何か変わるんですか？～		
講師 一般教育科 神戸和佳子 2年機械電子工学科 河地 悠馬, 一般教育科 山館 順		24
コラム		
靖国神社と「モニュメント」(1)「西洋モニュメント」としての大村益次郎像	電気工学科 米澤 一孝	26
靖国神社と「モニュメント」(2) メディアとしての大村益次郎像に込められた意味	電気工学科 米澤 一孝	27
育英高専からサレジオ高専へ～1987年～2019年の思い出～	保健室 杉山りつ子	28
【連載】図書館の本棚から(第13回)「上海游记」芥川龍之介	一般教育科 山館 順	30
【連載】「メディア」博物館探訪(第13回)「ハマセン台湾鉄道館」	一般教育科 山館 順	31
【連載】「メディア」博物館探訪(第14回)「原鉄道模型博物館」	一般教育科 山館 順	32
資料編(各種データ)		
図書館・情報館関連		
(1) 入館者数		34
(2) 図書館蔵書冊数		35
(3) 図書館貸出冊数		36
(a) 分野別貸出冊数		36
(b) 月別貸出冊数		36
(4) PC教室利用状況		37
PC教室(122, 123室)利用状況		37
編集後記	総合メディアセンター報 編集担当 山館 順	38

特集 「新たな気づきの広がりをもたらす創造性」

ショーペンハウアーの『読書について』が持つ現代性

一般教育科 中根 弘之

植物に見られる螺旋模様とフィボナッチ数

情報工学科 須志田 隆道

高専教育における「哲学対話」の広がりとその可能性

一般教育科 神戸 和佳子

熱対流・流体力学的不安定性現象のあれこれ

一般教育科 小林 和也

私の掃苔録 ～静岡県・富士霊園～

教務学生課 奥山 貴之

「東京焼盡」とラジオ放送

一般教育科 山舘 順

転生系ライトノベルについて

一般教育科 山舘 順

台湾の図書館、文学館

一般教育科 山舘 順

ショーペンハウアーの『読書について』が持つ現代性

中根 弘之[†]

アルトゥル・ショーペンハウアー（1788-1860）の『読書について』は、もともと『余禄と補遺』と題される著作から関連する論考を抜き出して作られた翻訳本である。

『余禄と補遺』は、主著『意志と表象としての世界』に対する補足として出版された書物でありながら、その高評価から、逆に発表当時評価されなかった主著が顧みられることになったという逸話を持っている著作である。日本では全集版の翻訳の他に、その中に収められている諸論文が『自殺について』、『知性について』、『幸福について』などのタイトルで分割翻訳され、短編でありながらショーペンハウアー哲学への道しるべとして世に知られている。

『読書について』もそうした『余禄と補遺』の翻訳の一篇であり、他の『余禄と補遺』と同様に、収められた三つの論考「自分の頭で考える」、「著述と文体について」、「読書について」の全編がアフォリズム（箴言）形式で書かれているという特徴がある。アフォリズム形式の著述は、古くはギリシアのヒポクラテスにおいて知られ、17世紀のモンテーニュやラ・ロシュフコーに代表されるモラリストの著作にも見いだされる。岩波書店『哲学・思想事典』によれば、もともとアフォリズムは「囲う」「区切る」を語源に持つとされ、アフォリズムの著述を好んだニーチェの言に従えば、十の文章で一冊の本にも匹敵するほどの内容を語るための簡潔にして選び抜かれた文章群であるとされている¹。例えば「汝自身を知れ」はデルフォイ神殿に飾られた箴言であるが、その言葉は人々の心を打つ言葉として現在も広く伝えられている。優れたアフォリズムは短いながらも真実の核心を突き、いつの時代にもその輝きを失わない。時にユーモラスに、時に辛辣に作者

の主張したい内容だけを、論理的論述とは異なった形で伝える表現形態がアフォリズムであり、この表現形態こそショーペンハウアーの思想の伝達にふさわしいと考える者もいるほどである²。『読書について』の内容として興味を引くのは、何気なく本書を手にとった読者を裏切る「読書について」のショーペンハウアーの見解である。おそらく我々は読書の楽しみについて、あるいは思索を深める読書法などが書かれているのではないかと思い、『読書について』に手を伸ばすであろう。しかし、「博覧強記の愛書家」への批判や「多読」の害悪についていくつものアフォリズムが連ねられ、さらには「書くことで報酬がはいる」ような「三文文士」に対する容赦ない攻撃が本文中の諸論考でなされているのを知ると面食らうに違いない。『読書について』で我々は、読書を勧めるどころか読書を禁じ、さらには世の中にいかに読まれるべきではない悪書が多く出回っているかと慨嘆するショーペンハウアーに出会うのである。

読者の多くは、こうしたショーペンハウアーの主張に驚きつつも、舌鋒鋭い彼の文章に軽妙なユーモアを感じ、明快な主張を楽しみつつ享受するだろう。三つの論考を貫く内容を概観すれば、自分の頭でしっかり考えなければ、読書は何ももたらすことはなく、ただ尊大で持って回った表現、あるいは言語破壊的な表現を学ぶに過ぎない。新刊書と呼ばれるものを貪るだけの多読な愛書家は、読むことだけが自己目的化しているだけの存在である。彼らは表面的な知識以外何も身に請けはしないし、むしろ自分で何かを考える力を弱めてさえいる。こうした主張は一見して古くから言われていることではあり、聞きなれたことであるかのように思われるが、ショーペンハウアーの筆を通してその内容が語られると、実に腑に落ちるものとなるのがこの『読書について』

[†] 一般教育科
General Education

の魅力である。

だが、注意深い読者なら、アフォリズムの形式で書かれたこの書の言葉の細部に、目が覚めるような主張が潜んでいることに気づくことができるだろう。例えば、「いちばん最近語られた言葉はつねに正しく、後から書かれたものはみな、以前書かれたものを改良したものであり、いかなる変更も進歩であると信じるほど、大きな過ちはない」(36-37)³や「書籍見本市の分厚いカタログを見て、早くも十年後にはもはやこの中の一冊も命脈を保っていないと考えると、泣きたい気持ちにならない者があるだろうか」(143)などに見るように、ショーペンハウアーは、「あらゆる時代の最良の書を読む代わりに、年がら年じゅう新刊書ばかり読む」(145)ような読書家たちの消費財になるような知の世界を徹底的に批判しているのである。

この点を大胆に現代に置き換えてみるとどうなるであろう。ショーペンハウアーは、「へぼ作家の大部分は、その日に印刷されたもの以外読もうとしないおめでたい読者のおかげで生計を立てている。すなわちジャーナリストだ」と、新聞を批判のやり玉に挙げているが、今日の通信技術の発達によって、多くの人々がより簡単により多くの人々に向かって情報を発信し、さらに情報を取得できるようになった現在、その批判範囲は莫大に増加したのではないだろうか。やり取りされる情報の主役は、いかに写真、動画といった媒体が増えようと、ショーペンハウアーの時代と変わらず文章である以上、またそれらに宣伝広告費などの実収入が付与される現状から見ても、彼の批判が全くの的外れとはいい難いと思われる。我々が何気なく情報を得ようとインターネットに接続するとき、そこにはより最新の、より多くの人々がアクセスした情報が、検索者の好みに合わせて並べられる。このような現状こそ、ショーペンハウアーが唾棄するような知のやり取りの世界ではないだろうか。

今や若いも若きもスマートフォンやタブレットを通して、インターネットで個人のブログを目

を通し、Facebookなどで著名人の発言を読み、Twitterの興味を引くつぶやきを電車の移動時間に読み飛ばす。その文字量たるや莫大なものとなっているだろう。しかし、それはすべて、ショーペンハウアーが言う、今日書かれた文章なのであり、十年後には消え去ってしまう文章なのである。しかも読んだからといってそれらの知識はまったく身につかないといえるだろう。2019年12月3日に発表され、新聞各社が報じた日本の子供の読解力の低下⁴は、様々な要因からそのテスト内容と結果を吟味する必要があるとはいえ、その事実を裏打ちしてくれるかのように思われる。他にも広く世に知られた『AI vs. 教科書が読めない子供たち』の中には、信じられないような事例に満ちている。文字を目にし、文章を読んではいないが、その中身たるや全く頭に入っていないのである⁵。莫大な情報の洪水の中で、その日に書かれた文章を、それが最新の情報であり、多くの人と情報を共有できるからという理由から読み飛ばす毎日、ショーペンハウアーの目から見ればなんと不毛に見えるだろうか。

そしてまた、『読書について』には、書き手にもなる我々研究者にも冷や汗をかかせるようなアフォリズムがあることを指摘しておこう。「いつでも座って本を読むことができるが、考えるとなると、そうはいかない。つまり、思索は人間のようものだ。いつでも好きなときに呼びにやれるだけではなく、あちらが来てくれるのをじっと待たなければならない」(18)。また、「だが真に価値があるのは、自分自身のために考えたことだけだ。思索者は第一におのずから思索するタイプ、第二に他者を志向するタイプ、この二つに分けられる。…第二のタイプはソフィスト、詭弁家だ」(24-25)。こうしたアフォリズムに触れるとき、時間に追われながらも成果を求められ、自身に書かなければならないとの一念を起させながら書き出すことが少なからずある私自身を顧みると冷や汗しか出てこない。「書くとき、素材をじかに自分の頭から取り出す人物だけが読むに値する書き手だ」(35)とショーペンハウアーは述べる。

読むに値するような書き手となるほどまでに思索を重ねていない我が身を嘆くばかりではあるが、現代社会においてショーペンハウアーが要求する水準まで思索を許す状況は、実に限られているともいえるのではないだろうか。

小品ではあるがショーペンハウアーの『読書について』は現代社会が陥ってしまった諸問題を反省する契機を軽妙なアフォリズム表現によって明らかにしてくれているように筆者には感じられてならないのである。

テキスト

A. ショーペンハウアー、『読書について』鈴木芳子 訳、光文社
古典新訳文庫、2013年

参考文献

- 『哲学・思想事典』廣松渉ほか編集、岩波書店、1998年
- 『ニーチェ事典』大石紀一郎ほか編集、弘文堂、2014年
- 『ショーペンハウアー』西尾幹二 責任編集、訳、中公パックス
『世界の名著43』、1978年
- 新井紀子、『AIvs.教科書が読めない子供たち』東洋経済
新報社、2018年

註釈

1. 『ニーチェ事典』項目「アフォリズムとそのパフォーマンス」で引用されるニーチェの遺稿から。
2. 西尾幹二は『ショーペンハウアー』の解説P24において、ショーペンハウアーの思想が体系的な論述よりもアフォリズム表現に合致している旨を指摘している。
3. テキストの引用ページ指定は全て光文社版の『読書について』によっている。
4. OECD所属各国が行った国際学習到達速度調査(PISA)における「読解力」項目の2018年の調査結果に基づく報道である。
5. ショーペンハウアーの指摘は当然子供の読解力に限らない。『読書について』(140)などを参照。

植物に見られる螺旋模様とフィボナッチ数

須志田 隆道[†]

1. はじめに

植物が作り出す美しい螺旋模様などのパターンは葉序 (Phyllotaxis) と呼ばれ、綺麗な法則性をもつことが知られている。螺旋模様の例として、図1に示された松笠を挙げる。松笠は複数の鱗片が規則的に並んだものであり、隣接する鱗片同士を図1のように繋ぐと、左巻きの螺旋が8本、右巻きの螺旋が13本得られる。この8と13は、フィボナッチ数列 1, 1, 2, 3, 5, 8, 13, 21, 34, 55, 89, … の隣接する2つの数である。

葉序の分野では、螺旋の本数を斜列数という。次に、螺旋を作る植物の葉や種などの元になる原基と呼ばれる細胞に着目する。原基は茎頂と呼ばれる中心から放射状に生成されることが知られている。葉序の分野で回転角と呼ばれる連続する2つの原基がなす角度を調べると、多くの植物において回転角が黄金角 (約 137.5 度) であることが報告されている。黄金角は、黄金比を用いて、およそ 137.5 度として与えられるものである。植物学者らによる調査結果を調べると、螺旋が観察される 90% 以上の植物における斜列数がフィボナッチ数であり、回転角が黄金角であるということが報告されている¹⁾。葉序の数理構造を理解するための研究は 19 世紀前半に始められ、螺旋模様を表現する単純な点列を用いた幾何学モデル (ポロノイ図やサークルパッキングなど) が提案され、



図1 松笠の真下から見た写真と螺旋。

回転角の連分数展開による近似分数が斜列数に密接に関係していることを示すということなどの数学的な研究が盛んに行われてきた¹⁾。

2. 螺旋模様を表現する点列とポロノイ図

植物の螺旋模様を表現する点列として、F. J. Richards が 1948 年に提案したフェルマー螺旋上の点列がある²⁾。この点列は角度 θ だけを自由に変更することができ、 θ をある値に固定すると点の位置が決定されるというものである。例えば、 θ を黄金比に固定すると、図2、図3、図4のように、図1で観察されたような螺旋模様を作る。Richards は点列における点同士の隣接関係を定義するために、フェルマー螺旋点列を母点集合とするポロノイ図を描き、1つのポロノイ領域に隣接するポロノイ領域の母点の番号を調べ、 θ が黄金比である場合に隣接する領域の番号がフィボナッチ数になることを指摘した。1980年代には、N. Rivier を筆頭にしてフェルマー螺旋点列のポロノイ図において、図2から図4に示されたように、螺旋の本数の組み合わせ構造が変化する場所において円環状のパターンが出現することを発見し、そのパターンが七角形、六角形、五角形から成ることを指摘した³⁾。

図2から図4において、◆の母点は七角形、●は六角形、★は五角形であり、その他はほとんど六角形である。3つの図は同じポロノイ図であり、一番外側の円環状のパターンの内側と外側で作れる螺旋の種類を図示している。隣接するポロノイ領域を繋いで螺旋を作ると、図2では、内側の螺旋が34本であり、外側が144本である。図3では、内側外側の両方で55本、図4では、89本である。つまり、円環状のパターンを境にして、斜列数の組が (34,55,89) から (55,89,144) に変化している。これは、植物が成長して大きくなると螺旋の本数が増えることに対応していると考えられている。

[†] 情報工学科

Department of Computer Science and Technology

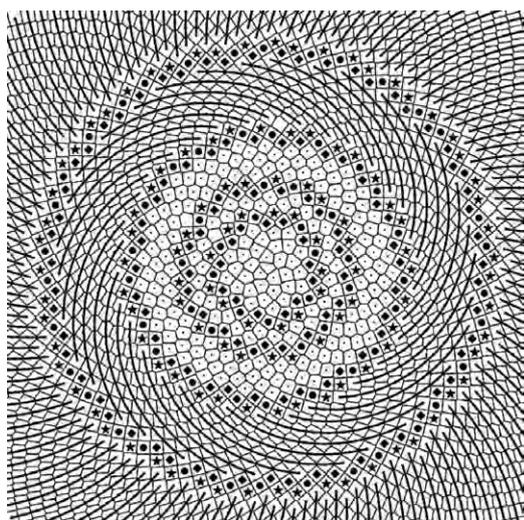


図2 内側の螺旋 34 本, 外側 144 本

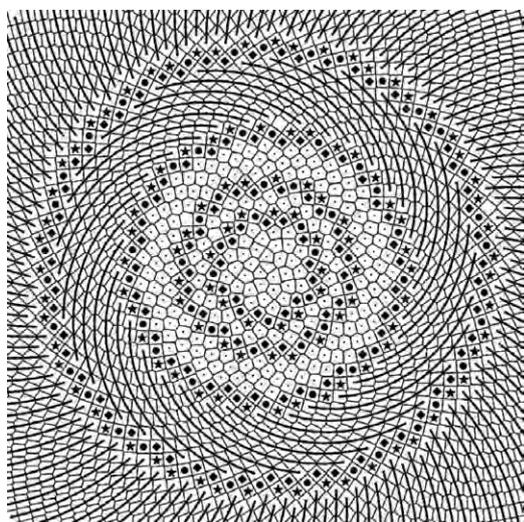


図3 内側および外側の螺旋 55 本

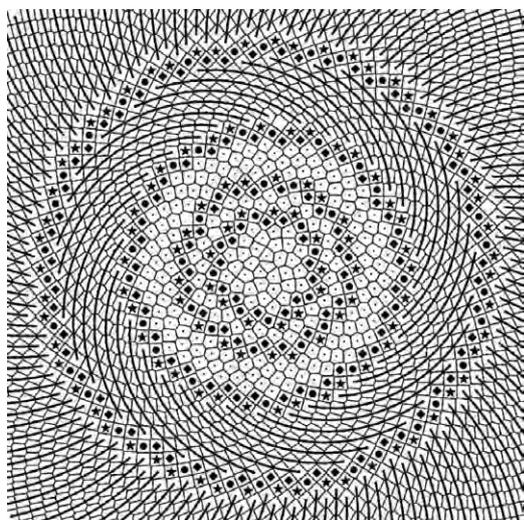


図4 内側および外側の螺旋 89 本

しかし、その数学的な証明に関しては示されていないことが葉序の分野における大きな問題として残されていた。近年、筆者らはフェルマー螺旋点列と一般化した点列におけるポロノイ図に関して、位相幾何学的方法を用いて円環状のパターンの性質を数学的に証明する研究を行っており⁴⁾、長きに渡り研究された葉序の未解決問題に終止符を打とうとしているところである。

3. 植物の形づくりを理解するために

本稿では、葉序の螺旋模様を理解するための数学的枠組みとしてフェルマー螺旋点列のポロノイ図を例に挙げたが、このようなドライなものが植物の葉序を理解するための枠組みとして受け入れられてきた理由は、植物がドライな幾何学パターンを形成するからだろうと考える。一方で、実際の植物は細胞組織であるから、どのような細胞機構がマクロな螺旋模様を作り出すかを探求することは、植物学の発展を視野に入れた研究として重要な位置付けであると考えている。しかし、細胞組織のようなマイクロなものを対象とするパターン形成の問題では、現象を記述する枠組みも複雑な方程式に支配されることが予想されるが、そのような状況であっても、情報工学科で学習することができる数値計算技術を駆使することで方程式の解を調べることができる。

今後の研究展開の1つとして、植物の成長過程を記述する新しい数学的枠組みを構築し、数学解析・数値計算を通して、これまで以上に現象を理解する研究に取り組みたい。

文 献

- 1) R. V. Jean, *Phyllotaxis, A Systemic Study in Plant Morphogenesis*, Cambridge University Press, 1994.
- 2) F. J. Richards, *The geometry of phyllotaxis and its origin*, *Symp. Soc. Exp. Biol.*, Vol. 2, 217-245, 1948.
- 3) N. Rivier, et al, *Structure of Bénard convection cells, phyllotaxis and crystallography in cylindrical symmetry*, *Journal de Physique*, Vol. 45, No. 1, 49-63, 1984.
- 4) 須志田 隆道, 山岸 義和, 一般化アルキメデス螺旋格子による葉序的なポロノイタイリング, 2018年度応用数学合同研究集会予稿集, 2018.

高専教育における「哲学対話」の広がりとその可能性

神戸 和佳子[†]

1. はじめに

いま、高等専門学校（以下、高専）の教育で、「哲学対話」、「P4C（Philosophy for Children）」などと呼ばれる教育の実践が、全国的に広まりつつある。後に詳述するが、管見の限りでは、佐世保高専で以前先駆的な試みがあったほか、現在、明石高専、宇部高専、東京高専、福井高専での少なくとも4校での実践例が確認できる。本稿では、各高専の実践例に学びながら、高専教育において哲学対話に期待されている可能性を検討したい。

2. 哲学対話とは

哲学対話、子どもの哲学、P4Cといった名称があるが、教育の文脈では、これらはほぼ同一の実践を指す。1960年代に米国の哲学者 M. Lipman が考案し、その後世界的に広がった、高等教育以前の段階の子どもたちを主な対象とした哲学教育である。日本でも以前から取り入れられているが、とりわけ近年、学習指導要領に盛り込まれた「主体的・対話的で深い学び」や、アクティブ・ラーニング、また大学入試改革に伴う思考力表現力養成の必要等から、実践が広がっている。

哲学対話は各地で独自の展開を見せており、また、日本でも学校や教員によって実践の手法は様々であるが、一般的な展開は次の通りである。まず、(教員ではなく)生徒が、その授業で扱う「問い」(テーマ)を出し合い、一つに定める。この問いは、調べても答えが見つからず、また、簡単には答えが一つに定まらないような、共同探究の余地のある問いが設定される。次に、車座になり、その問いについて、互いに意見を出し合い、質問を交わし合いながら、対話を通じて探究を深める。最後に、自身の学びと、その日の対話の場(コミュニティ)についての振り返りと評価を行う。

哲学対話の特徴としては、教員が司会者となっ

て進行をしたり、授業の最後に結論づけたりすることは少ない。教員と生徒はともに探究者として対等であり、「生徒たちが自主的に対話を進行し、各人が異なる学びを持ち帰ることが期待されている。日本の実践は、ハワイで発展したP4Cのスタイルから強く影響を受けており、その場合、「コミュニティーボール」というトーキングツールが用いられたり、「知的な安全性 Intellectual Safety」という原則が重視されたりするなどの特徴がある。

3. 各高専の実践例に見るその可能性

高専教育は、高等教育であることや、学習指導要領や大学入試改革の影響を受けないことから、先述の哲学対話導入の条件や動機には当てはまらないように思われる。それにも関わらず、実際には多くの実践例がある。高専教育への導入の動機や教育効果はどこにあるのか。以下、事例から見えていきたい。

佐世保高専では、同校ホームページで確認できる限りで、2005年10月、2007年1・7・12月の少なくとも計4回、「哲学カフェ」が実施されている。ただし、これは一般教育科の川瀬雅也准教授(当時)が進行役となり、市民に開かれた「一般教育講座」として開催されたものである。地域に根ざした高専となるための一つの方法として、市民を交えた対話実践されたものと推察される。

現在、授業実践として行われているのは、明石高専、宇部高専、東京高専、福井高専の4高専である。

明石高専では、「情報倫理」教育として哲学対話が導入されている。佐村・森は、情報倫理教育の課題として、「べからず集」(根拠のない単なる禁止事項の羅列)による教育では学生の道徳性は低次のものにとどまることや、技術革新に伴って道徳的指針の空白が生じることを挙げ、学生の高次の道徳性、自律的な道徳的判断力を育てる教育として、モラル・ジレンマと哲学対話の導入を提案している。また、情報技術の専門家と哲学・倫

[†] 一般教育科
General education

理学の専門家の協働の必要性を論じており、実際に、哲学対話を支援する任意団体「カフェフィロ」の協力を得て、授業開発を行っている。

東京高専、宇部高専では、社会科系の科目で哲学対話が導入されている。村瀬は、東京高専生が理工系の科目に高い意欲を持つ一方で、人文社会系科目への意欲が低い傾向があることや、グループ学習に苦手意識を持つ学生が多いことを課題として挙げる。そして、哲学対話の実施によって、学生が対話と楽しむことで意欲が高まり、また、他者の意見を参考にすることや、他者とともに議論し考えることの意義を感じ取るようになっていくとする。

福井高専では、2022年新設予定の「工学倫理」（5年生）で、グループ学習やアクティブ・ラーニングに慣れた学生にどのような技術者倫理教育を行うかが検討されており、その可能性の一つとして、早い段階から哲学対話が試行されている。佐藤・中川の論考からは、課題としては明示されていないものの、高専教育の様々な特色が読み取れる。まず、佐藤らが初めて哲学対話を実施したのが、混合クラスから学科ごとのクラスへの移行直後（2年生）のホームルームであり、クラス運営上の必要があったこと。また、学生たちが選んだ対話のテーマが「髪は黒か、茶か」で、これは一見10代の若者に共通の問いであるようだが、実際には対話の中で「高専にいるから、大人にも高校生にもなれない感じだから」このことが問題となるという発言や、「企業の人々が来たりして」就職への影響があるかもしれない、だから先生も厳しくするのは、などの発言があり、実は学生たちが高専生としての生き方を問うていたことがわかる。

以上の事例からは、各高専の特色が読み取れるが、その違いを越えた高専教育に共通の課題も見て取ることができる。外部に開かれた学校運営、スピードの速い技術の変化に耐えうる倫理性や判断力の教育、理工系と人文社会系の教員間の連携、社会科系科目へのインセンティブ、高専生のコミュニケーションや対人関係の特性、混合クラスから学科クラスへの移行、大学生でも高校生でもないという高専生の自己認識、就職への希望と不安…。これらは高専教育が共通に抱える課題であり、哲学対話はそれらに資するものとして期待されているのである。

4. おわりに

ここまで、各高専の実践例から、高専教育においてなぜ哲学対話が期待されているのか、そこにどのような可能性が見出せるのかを考察してきた。その期待や可能性に本当に哲学対話が応えうるものかどうかは、まだ研究途上である。高専での哲学対話実践を対象とした研究は得居によるものが代表的だが、それ以外は数少ない。また、小川は、哲学対話への迷いをいくつか述べている。とりわけ、ジェンダーに関する授業のように、高専生に教員として「教えたい」（知識を与え、意識を変えたい）ことと、哲学対話のように「ともに考えたい」こととの間に生じる問題は、高専のように同質性が高いとされる集団においてとりわけ重要であると考えられる。

ただ、これまで各種学校で哲学対話の実践を重ねてきた筆者としては、高専教育の特性に応える哲学対話に、ここサレジオ高専でも挑戦してみたい。そしてそのことによって、翻って高専教育の課題についても、さらに検討を続けていきたい。

文 献

- 1) 小川泰治「「哲学する教師」になれるのか—あるいは、「高専でつがく」の試みの経過報告—」、哲学プラクティス連絡会編『機関誌 みんなで考えよう』第2号所収、pp.52-61、2019年
- 2) カフェフィロ「イベントレポート:高専での哲学対話の可能性を考える座談会@明石高専」(オンライン)、<http://cafephilo.jp/topic/topicpost-1499/>(参照2020年1月14日)
- 3) 佐世保工業高等専門学校ホームページ内「イベント情報」(オンライン)、<http://www.sasebo.ac.jp/snct/event>(参照 2020年1月14日)
- 4) 佐藤勇一、中川雅道「福井高専における子どもの哲学(p4c)の初実践について:附録(対話文字起こし、ワークシート記述)付」、福井工業高等専門学校編『福井工業高等専門学校研究紀要 人文・社会科学』第52号、2018年
- 5) 佐村敏治、森芳周「指針の空白を埋める情報道徳教育」、『明石工業高等専門学校 研究紀要』第61号、2019年
- 6) 得居千照「哲学対話における「学習としての評価」の役割—高等専門学校「対話としての哲学・倫理入門」『現代社会論』の実践分析を手がかりとして—」日本社会科教育学会編『社会科教育研究』第132号所収、p. 27-39、2017年
- 7) 村瀬智之「「子どもの哲学」を基礎とした哲学対話の授業」、東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会編『都倫研紀要』第57集、pp. 67-76、2018年
- 8) T. Ogawa, T. Murase, K. Nishiyama, “Engineering Education as Citizenship Education by P4C”, in Proceeding of the 13th International Symposium on Advances in Technology Education, 2019.

熱対流・流体力学的不安定性現象のあれこれ

小林 和也[†]

Thermal Convection and Hydrodynamic Instability Phenomena

Kazuya U. Kobayashi[†]

本稿では熱対流や流体力学的不安定性現象といったキーワードを中心に、筆者のこれまでの研究に関連した内容で書き綴っていきたいと思う。浅学な筆者である私がこのような記事を書かせていただくことは、恥を知らない厚顔なことであるが、本稿を通して、筆者が何者であるかが少しでも関係者の皆様に認知していただければ幸甚の至りである。

1. はじめに

1980年代後半から、理科嫌い・理科離れが小学校から高校にかけて進んでいることが問題視されていることは噂に高い⁽¹⁾。この問題に対し、理系教育に携わっている身としては決して対岸の火事ではないが、幸いにも、サレジオ工業高等専門学校（以下、サレジオ高専）は、社会の第一線で活躍する技術者を養成する工学系の学校であり、毎年多くの理系を志す意欲的な学生がサレジオ高専の門を叩いていることに安堵している。今後、より一層サレジオ高専の魅力が認知され、全国の気力旺盛な学生が同校を志すことを期待して止まない。

さて、本稿では、これまでに取り組んでいる研究テーマから、思い入れのある研究の成果をいくつかを紹介をしていきたいと考えている。文才がない身として、このような記事を書くことにはささか気恥ずかしさを感じるが、本稿を通して、筆者について少しでも関係する皆様に認知していただければ幸甚の至りである。

2. 熱対流現象

皆様は熱対流という言葉・現象についてご存知であろうか。例えば日本人の食卓にはおなじみ

のお味噌汁を静置していると次第に液面にもくもくと不思議な模様が形成される。これがまさに熱対流と呼ばれ、上面と下面の流体（お味噌汁で言えばお椀の底付近にある液体と空気と接している表面付近の流体）の密度変化に起因して起こる現象である。つまり軽いものは上昇し、重たいものは沈むことを繰り返している訳である。このような熱対流は非常に身近であり、お味噌汁だけでなく、気象現象、海洋現象、さらに地球内部のマントルに至るまで、幅広く関連する重要な現象である。ここで少し歴史的景観を述べれば、初めて系統的に熱対流の実験研究を行ったのは、フランスの研究者である H. Bénard (1900年) である。彼は厚さ 1mm 程度の鯨油を下から加熱した際に六角形の美しいパターン（図1）が現れることが発見した（このパターンを Bénard セル



図1：Rayleigh-Bénard 対流の特徴的なセルパターン (2)。蜂の巣状のパターンが確認できる。ここで白い部分が下降流、黒く見える箇所が上昇流である。

[†] 一般教育科
General education

と呼ぶ場合もある)⁽²⁾。さらに、イギリスの研究者である L. Rayleigh (1903 年) によって理論的取り扱いが行われた。そして彼らの研究を皮切りに、多くの研究者が対流現象に取り組み始め、現在に至る対流研究の基盤が構築された。

この対流現象はこの 2 名の名前をとって“Rayleigh-Bénard 対流”とも呼ばれ^[注1]、現在も盛んに研究が行われている⁽²⁾。

筆者は配属研究室において、この熱対流に関する研究に取り組んだ。1900 年といえは今から 120 年も前のことであり、現在に至るまで様々な研究者が多くの目覚ましい成果を世に発表していることから、特に古くから研究が行われてきた定常領域^[注2]に新しい現象等が見つかることは予想もされていなかった。その中で、筆者らは粘性の異なる 2 種類の液体を混ぜ合わせた混合溶液を定常領域で対流させたときに、突如として流れがなくなり停滞する領域が動的に形成されるという不思議な現象を発見した。図 2 はその

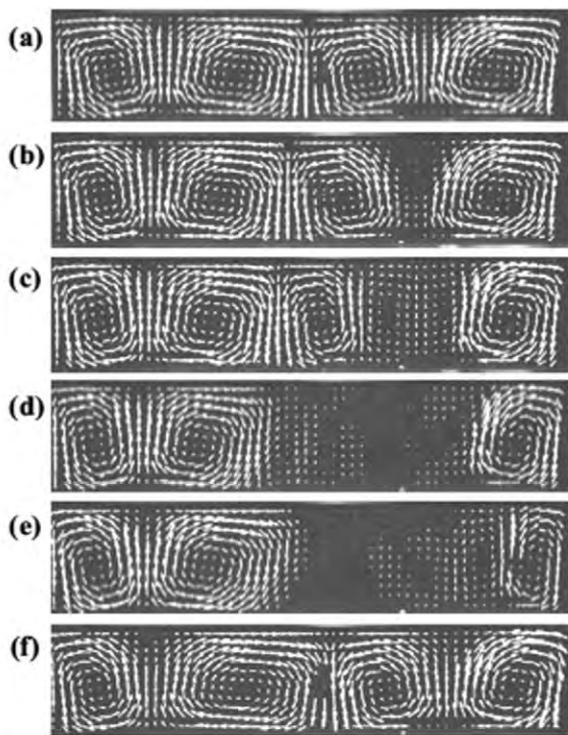


図 2：過渡的停滞領域形成に伴った、対流状態の変化⁽⁴⁾。(a) から (f) は時間経過も表しており、(a) では規則的な 4 つ渦が形成されているが、次第に右側に過渡的停滞領域が形成され、流れが乱される。そして次第に初期に近い状態へと戻っていることがわかる。白矢印は流れの方向を表す。

様子を示した実験結果であり、白矢印は流れの向きを表している。(a) では 4 つの渦が形成されていることがわかるが、次第に右側の渦間に矢印がなくなっている領域が現れる。この領域が (c)-(e) と広がって、再び初期と同じ状態 (f) へと戻る様子が観察できる。そして筆者らは、この領域を“過渡的停滞領域 (TSD: Transient Stagnant Domain)”と名付けた。繰り返しになるが、このような現象が定常領域で起こることは、これまでの研究からは予想されていなかった。ここでは立ち入った専門的説明を割愛するが、本現象に興味がある方は筆者らの論文^{(2),(3)}を参照されたい。現在も形成メカニズムを明らかにするために研究活動を展開している。

3. 流体力学的不安定性現象

重力方向に対して、軽い液体 (低密度流体) の上に重たい液体 (高密度流体) を乗せた時、どのようなことが起こるだろうか。当然、軽い液

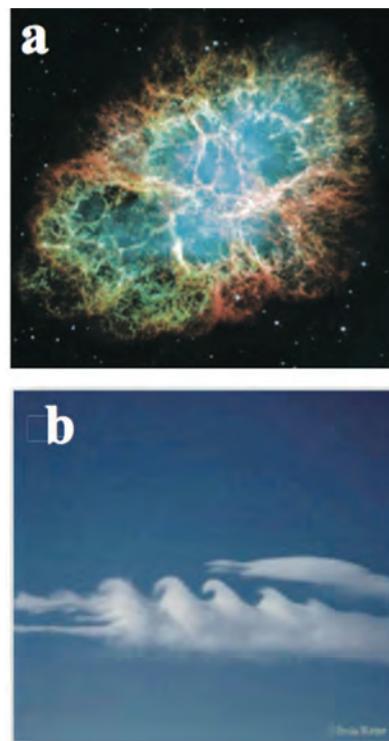


図 3：流体力学的不安定性 (Rayleigh-Taylor 不安定性、Kelvin-Helmholtz 不安定性) の例^{(5),(6)}。

(a)：かに星雲であり、超新星爆発などの星の内部の物質混合において重要である。(b)：空雲の不安定化パターン。密度差を伴った流体の運動によって境界面に不安定化が起こり特徴的なパターンがみられる。

体が重力と逆方向に、重い流体が重力方向にそれぞれ流れ始めることはご想像の通りである。この現象は、重力不安定性現象、または発見者にちなみ“Rayleigh-Taylor 不安定性”と呼ばれており、日常生活における身近な現象にとどまらず、さらに大きな規模、例えば超新星爆発（図 3(a)）などと関連し、非常に重要な現象である。

ところで、このような流体力学的不安定性現象（Rayleigh-Taylor 不安定性、Kelvin-Helmholtz 不安定性）を実験的に調べるためには、どのような方法が考えられるだろうか。ここではよく実験に使用されている 2 つの方法を紹介する。一つ目は、お互いに混ざり合わない液体同士を密度安定状態とし（下層が高密度流体、上層が低密度流体）、瞬間的にその入れ物を 180 度回転させることによって、上層と下層を重力方向に対して入れ替えることで不安定化を誘起するというものである。しかしながら、この手法は (i) 混ざり合う（混和性）液体では実験が難しい、(ii) 系全体を回転させるため、2 層を完全静止状態にすることができないなどの問題点がある。つまり、非混和性であり、かつ非常に高粘性の液体でなければ、お互いにほとんど静止した状態からのパターン形成を調べることができない⁽⁷⁾。二つ目は、2 層の流体間に仕切りをセットし、その仕切りを引き抜くことによって不安定化を観察する手法である。しかしながら、この手法も仕切りを引き抜く際に、仕切り付近の流体を引きずるため、流体に不必要な強い人為的攪乱が加わってしまう⁽⁸⁾。ここで紹介した方法は、近年でもよく使用されるものであるが、初期の人為的攪乱はどちらも無視できない。本来、不安定性現象はそのような人為的な攪乱がほとんどない状態において、実験的に研究する必要があるが、それは実験的に不可能とされ、上述程度の人為的攪乱は目を瞑る傾向があった。故に近年の流体力学的不安定性現象の研究はシミュレーションである場合が多い。筆者らは、この問題点に着目し、実験的に人為的攪乱がほとんど伴わない手法は実現できないかと考えた。そして、物理ゲルを使用することに

よってそれを実現できることを示した⁽⁹⁾。ここで物理ゲルとは寒天等の加熱や冷却によって可逆的に、液体と固体を転移することができる物質のことである。図 4 は、我々が考案した手法を用いた Rayleigh-Taylor 不安定性の実験結果である。図 4(a) は緑の領域が軽いゲル、黒い領域が重いゲルである。普通であればこの状態では即座に上下が入れ替わる不安定性が起こるが、本手法では密度反転状態にもかかわらず、静止した状態を実現することができる。もちろん仕切りやセルごと回転させるといった人為的攪乱を伴わない。あとはセル全体を転移温度以上に加熱することによって、(b)-(e) のように不安定化パターン（Finger パターン形成による上下の入れ替わり）を観察することに成功した。

以上のように、対流現象および流体力学的不安定性現象の実験的研究が、筆者のこれまでに取り組んできたメインの研究テーマである。本誌ではまだ紹介することができないが、現在も上記に関連したプロジェクトが始動中であり、その内容に関しては、またの機会にご紹介できれば幸いである。次に水平方向に対して密度差がある流体（重力に対して下に重たい流体、上に軽い流体が乗っている状態）が、速度差を持って水平方向に対して接して運動している場合、その境界面は常に平ではなく、不安定性によってゆらぎ始めることが知られている。この不安定性は“Kelvin-Helmholtz 不安定性”と呼ばれ、時に青空に浮かぶ雲にもその一端を見ることができる（図 3(b)）。

4. おわりに

本稿で紹介した研究は、筆者らのこれまでの研究について大まかに重要なポイントを抜粋して紹介したものである。もし読者の中でさらに詳しい内容について知りたい方は、参考文献に挙げた論文を参照いただくか、または筆者に直接連絡をいただいても構わない。実りある議論ができれば幸いである。

ところで、実は筆者も高等専門学校出身者

であり、高専の魅力や学生については理解しているつもりではあった。しかしながら、教師としての立場から高専教育に関わる中で、高専教育や高専生がいかに社会に評価され、日本の技術発展に寄与しているかを改めて感じている⁽¹¹⁾。筆者も、かつては学生として、現在は教員として、その一端に関わっていることを誇りに思い、今後も教育活動や研究活動に奮闘したいと考えている。

謝 辞

このような執筆の機会を与えてくださいました、一般教育科の山館順先生に感謝申し上げます。また、筆者の研究活動および教育活動を支えてくださっているすべての方へ、この場を借りて感謝申し上げます。

文 献

- (1) 長沼祥太郎, 科学教育研究 39, 2 (2015).
- (2) E. L. Koschmieder, Adv. Chem. Phys. 26, 605 (1974).
- (3) E. Bodenschatz et al., Annu. Rev. Fluid Mech. 32, 709-778 (2000).
- (4) K. U. Kobayashi et al., Sci. Rep. 7, 12983 (2017).
- (5) J. J. Hester, Annu. Rev. Astron. Astrophys. 46, 127-155 (2018).
- (6) W. D. Smyth and J. N. Moum, Oceanography, 25, 2 (2012).
- (7) K. U. Kobayashi et al., Sci. Rep. 5, 18677 (2015).
- (8) S. I. Voropayev et al., Phys. Fluids A 5, 10 (1993).
- (9) M. S. Davies et al., J. Fluid Mech. 756, (2014).
- (10) K. U. Kobayashi et al., Phys. Rev. Fluids 4, 013901 (2019).
- (11) 国立高等専門学校機構 (<https://www.kosen-k.go.jp>)

注 記

注1)より厳密には、対流のパターン形成は境界条件によって決まることが知られており、例えば、今回紹介しているような上面の液体が空気と触れているような状態(Rigit-Air条件)では、図1のような六角形パターンが形成されることが知られており、これは浮力による効果と温度勾配に伴う表面張力変化に起因したMarangoni効果が競合しているため、Bénard-Marangoni対流と呼ばれる場合がある。そして上面・下面がともに壁である状態(Rigit-Rigit条件)では、Rigit-Air条件とは異なるパターンが形成されることが知られており、これをRayleigh-Bénard対流と呼ぶ場合もある。詳しくは文献5を参照されたい。

注2)対流現象はレイリー数Raと呼ばれるパラメータによって支配されていることが知られている。

$$Ra = \frac{g\alpha\Delta TH^3}{\nu\kappa}$$

ここでgは重力加速度、 α は熱膨張率、 ΔT は上下面の温度差、Hは流体層の厚さ、 ν は動粘性係数、 κ は熱拡散率をそれぞれ表す。すなわち、レイリー数が大きくなることによって対流の状態が変化する。定常領域とはレイリー数の増加によって、熱伝導状態の後に初めに現れる対流状態であり、ロール状の安定した対流構造をとることが知られている。これまでの常識では、この領域ではロール構造が安定であり、レイリー数を変化させない限り、変化がない領域であると考えられてきた。したがって、近年で、この領域の対流構造に着目している研究は少ない。

私の掃苔録 ～静岡県・富士霊園～

奥山 貴之[†]

「掃苔」という言葉がある。

著名人のお墓参りを趣味としている人の総称であるが、現在、一般人が掃苔の成果をインターネット上で公開する例が多く見られ、中でも、『文学者掃苔録』と『歴史が眠る多磨霊園』は書籍化もされた。かくいう私も掃苔を趣味としており、東京・神奈川・静岡と各地にある著名人たちの墓を訪ねてきた。今回はその中から、文学者が多く眠る富士霊園を紹介したい。

富士霊園は、静岡県駿東郡小山町にある公園墓地であり、ここには昭和を彩った多くの著名人が眠っている。中でもこの墓地には、公益社団法人日本文藝家協会による「文学者之墓」が設置されている。

この「文学者之墓」の墓は、1969年（昭和44年）に墓のない会員のために墓所を提供する目的で造られた。作家として作品を残し、かつ日本文藝家協会の会員であれば誰もが申し込み可能で、分骨のみならず愛用品も納められるシステムとなっている。そのため、この制度に申請を出している文学者すべてが納骨されているわけではない。現在、筆者調べで納骨を確認している作家には、川崎長太郎、野長瀬正夫、後藤檜根、由良君美、江國滋、金達寿、上田五千石、青江舜二郎、丹羽文雄、水上勉、田畑麦彦、宇咲冬男、大河内昭爾、車谷長吉、内田康夫、萩原葉子、上坂冬子、時実新子らがいる。

2017年（平成29年）12月9日、雪の冠被る富士山を眼前として、八王子から2時間程かけ、この墓地を訪れた。お目当ての「文学者之墓」は霊園の高台に設置されている。今回は自家用車で向かったので訳無く目的地へと向かったが、霊園の入口から歩くと20分近くかかるのではないかと思うくらい遠い場所にある。なので、歩いての訪問はあまりオススメしない。

なだらかな坂を昇りきった突き当たりを左に曲

がり、先の坂とは打って変わった傾斜が急な坂の途中、右側の鬱蒼とした森の入口に「文学碑公苑」と書かれた道標が現れる。その前にある駐車場に車を止め、道標に導かれるまま森の中へと入る。種田山頭火の句「分け入っても分け入っても青い山」が頭によぎりながら、まるでハイキングコースのような道を歩いていく。息を切らしながら階段を昇りきると、山間に聳え立つ石碑群が姿を現す。これが「文学者之墓」である。島崎藤村、吉川英治、高田保らの墓を設計し、多くの文学碑を担当した建築家・谷口吉郎による「文学者之墓」は、墓というよりモニュメントのような姿をしていた。

敷地に建つ9基の墓碑には、約850人の名前と本人や遺族が選んだ代表作のタイトルが刻まれている。1969年（昭和44年）の開設当初に刻まれた文士達は「第1期」と分けられており、以後「第9期」まで続いている。

墓碑入口には「文学者之墓」と刻まれた黒光りする洋形の石碑と、創設当時に日本文藝家協会の会長だった丹羽文雄による「日本に生まれ日本の文学に貢献せる人々の霊を祀る」という碑文が刻まれた石塀が設置されている。その横から、850名の文学者と作品名が刻まれた碑銘がスタートする。そのトップは、「芥川賞」「直木賞」を創設し、日本文藝家協会を立ち上げた菊池寛であった。以下、廣津和郎、萩原朔太郎、と錚々たる文士たちの名前と代表作が並ぶ。

興味深いのが、世間で代表作と言われている作品と、作者本人および家族が選ぶ代表作が異なる作家が多い。例えば、『しろばんば』『敦煌』で知られる井上靖が選んだのは、不倫を題材とした短編小説『猟銃』であり、『竜馬がゆく』『国盗り物語』と多くの傑作を生み出した司馬遼太郎は『空海の風景』を選んでいる。まるで「世間での代表作が自分にとっての代表作ではない」と言わんばかりの主張が感じられ、大変興味深かった。

また、文学者ではないものの、この墓に納めら

[†] 教務学生課

Department of Academic and Student affairs

れている著名人もいる。詩人・阪田寛夫の娘で、宝塚の男役トップスターとして活躍した大浦みずき。記録映画監督の高木俊朗など、いずれも作家が本業ではないが、何かしらの著作を残したことで入ることが許された人である。ベストセラー『窓ぎわのトットちゃん』を書いた女優でタレントの黒柳徹子も、この碑に名前が刻まれている。

このほか富士霊園には、五味川純平、高橋和巳、椎名麟三、梅崎春生、高田敏子、鈴木真砂女、などの文学者が個人の墓として眠っている。文学者の墓がこれほどまでに集結しているのは、ここか多磨霊園くらいであろうと思う。まさに富士霊園は文学ファンにとっての聖地なのである。また、文学者以外にも、岸信介、本田宗一郎、市川房枝、杉村春子、藤山一郎、といった各界の著名人がこの地に納められている。文学者を訪ねる傍ら、こういった昭和の著名人を訪ね回るのも面白いのではないか。

富士霊園は、春になると満開の桜が園内を彩り、晴れた日には富士山をも望める。2019年（令和元年）5月には、静岡県ゆかりの作家の写真を常設展示する広報館「文学庵」が文学者之墓の近くに開設された。富士が見下ろす自然の風景を楽しみながら、在りし日の文豪の姿や作品に思いを馳せる場所として、今後多くの文学ファンがこの地に訪れるようになるのかもしれない。

文 献

- 1) “文学者掃苔録”, <http://www.asahi-net.or.jp/~pb5h-ootk/pages/TOP.html>, 2020年1月1日-1月14日閲覧
- 2) “歴史が眠る多磨霊園”, www6.plala.or.jp/guti/cemetery/, 2020年1月1日-1月14日閲覧
- 3) “公益財団法人 富士霊園”, <https://www.fujireien.or.jp/>, 2020年1月1日-1月14日閲覧
- 4) “公益社団法人 日本文藝家協会”『「文学者之墓」管理運営内規(改定版)』, http://www.bungeika.or.jp/pdf/kijun_bungakushanohaka201204.pdf, 2020年1月1日-1月14日閲覧
- 5) “静岡新聞SBS”『偉大な作家思いはせて 新たに広報館、写真展示 小山・富士霊園』, <https://www.at-s.com/news/article/culture/shizuoka/640091.html>, 2020年1月1日-1月14日閲覧

「東京焼盡」とラジオ放送

山館 順[†]

1. 「東京焼盡」

作家内田百閒(本名栄造 1889-1971)が太平洋戦争末期の昭和19年(1944)11月1日から敗戦直後の20年8月21日に至る日記は戦後十年目の昭和30年に「東京焼盡」の題で刊行され、都心の市ヶ谷四ツ谷間に暮した作家の戦中日記として現在までに講談社と福武書店から刊行された彼の全集に収録、他にも中公文庫版等様々な形で手に取ることが出来る¹⁾。

本稿では従来の文学研究とは異なる視点でメディア社会史の史料として日記を捉える事で、作家の中で新聞とラジオ放送の二つのメディアについてどのような重要性の変化が生まれていたのかについて検討したい。以下適宜新字新仮名とした。

少年期より故郷岡山で琴の手習いに励み、上京後にはドイツ語教官の傍らエルマンら来日演奏家の提琴公演に通うなど、音楽好きは晩年まで変わらなかった。

大正末のNHKラジオ放送開始直後から庭に大きなアンテナを据え付け高価な受信機を購入するなど関心も高く、徳川夢声との対談では戦時メディアとしてのラジオの重要性に言及している。しかしその後理由は未詳ながら昭和10年8月末に一旦受信契約を解除している。

百閒が受信契約を再開したのは戦況苛烈となった昭和19年11月1日のNHK嘱託就任を機にしてであり、「東京焼盡」もこの日に始まり、また同月空襲警報が同月2年ぶりに再開される。

12月になると「この頃は空襲を待つ様な気持ちで明け暮れを過ごす。誰も何事も手につかぬらし。」

初め昼間か宵の時間帯までだった警報は12月11日には午前2時の鳴り出し、翌朝眠れぬまま午前7時と9時半にも警報、「南方に爆弾の落下する地響き聞こえ、青い閃光が続けざまに光った。」

終戦の20年は「鹿が喰うようなものでお正月」ラジオの空襲関連ニュースは命を護るため不可欠となり、しかし1月27日、「ラジオの情報放送で、只今の解除のサイレンは機械の故障による間違いだと云ったが、犠牲になった人には間に合わず。」

3月の下町大空襲では「大正十二年の大地震の大火の時に出来た入道雲のような煙のかたまりが今夜も現れた。殷殷たる高射砲の音が夜空一ぱいに響き渡った。」

遂に5月25日夜半の山の手空襲でラジオもろとも自宅全焼、隣家の庭にあった掘っ建て小屋を借りて三年暮らし、終戦の玉音放送もここで聴いた。

5月31日の東京駅は「焼けて屋根もなくなり足許は灰と砂で凸凹になった歩廊(ホームのこと、山館注)に人がいっぱいつまり」という状態。

配給の野菜も遅れがちとなり栄養失調が懸念されるようになる。

一日何回も空襲警報と解除が繰り返され神経が弱って来る。終戦によりようやく不安から解放された。

2. ラジオ放送への言及から

「東京焼盡」から先ずラジオ放送について何らかの言及のある日付を月毎に算出した。その際一日の中で複数回言及の日も一日として計算した。

表1 ラジオに言及した日数

1944年	11月	3日
	12月	3日
1945年	1月	7日
	2月	10日
	3月	14日
	4月	11日
	5月	15日
	6月	1日
	7月	10日
	8月	21日まで: 6日

[†] 一般教育科
General education

表2 新聞に言及した日数

1944年	11月	0日
	12月	0日
1945年	1月	2日
	2月	0日
	3月	1日
	4月	0日
	5月	4日
	6月	2日
	7月	0日
	8月	21日まで：4日 合計13日

焼出されたあとの6月には隣家の母屋や近所のラジオに耳を澄ます、日本家屋の開放性という特徴の為戦前気には多かったとされるながら聞きを百間も余儀なくされていた。

比較材料として新聞に言及した日について同様の方法で算出したのが表2である。

度重なる警報と解除の中で落ち着いて新聞に目を通す余裕がなく、又当時物資統制強化の為新聞用紙の配給が削減されていたといった事情が考えられるが、ラジオに言及した80日と比べて圧倒的に少ない。

実際の戦災被害の印象と報道記事とのかい離が顕著であり、最早百間が新聞報道を信頼できなくなっていた事が窺える。

不十分ながらラジオ放送に依存する他なかったのである。

3. おわりに

昭和23年発表彼の代表作の一つである短編「サラサーテの盤」冒頭には百間に擬せられた主人公が冬の夕暮れ時、書齋で耳を澄ましているうちに小石がころころと屋根を伝って落ちていく音に怯える場面がある²⁾。

鋭敏な聴覚を持つ作家による「東京焼盡」は戦災被害と食糧事情悪化の生々しい記録という視点から従来検討されてきたが、本稿では新たに戦時下の都心に暮した一知識人を通じて観察したメディア社会史の史料という特徴も併せ持つことを指摘したい。

日記は作家が耳で聞いた戦争の記録でもある。

8月21日の最終日、百間はようやく終戦以後数日分の新聞に目を通すことが出来た。

「この数日來の新聞記事を読んで今迄の様な抵抗感情を覚えなくなった。『出なおし遣りなおし新規まきなおし』非常な苦難に遭って新しい日本の芽が新しく出て来るに違いない。」

文 献

- 1) 内田百間「東京焼盡」、1978年、中公文庫
- 2) 同上 「東京日記 他六篇」、1992年、岩波文庫

転生系ライトノベルについて

山館 順[†]

1. 本校のライトノベル所蔵状況について

近年多くの高校において学校図書館にライトノベル(以下ラノベと略記)が配架されている。

本校総合メディアセンターの場合、専門的また高度な内容の書籍への準備と活字に慣れる目的を念頭に2018年現在で約400冊のラノベを数える。

一方ここ数年ライトノベルの中で主要なジャンルを占めると言ってよいほどに増加したのがいわゆる異界転生ものと呼ばれる作品群である。

概略は主人公が現世ならぬ異界に生まれ変わり、そこで権力を得たり、女性にもてたり充実した生活を送るという内容である。

2019年7月2日付朝日新聞記事文化文芸欄記事によると、今年2月の決算において出版不況の中で大手の講談社が増収増益となった理由にマンガ「転生したらスライムになっていた件」のヒットがあるという。

作品は中年サラリーマンの主人公が事故で異世界に生まれ変わりそこで活躍するという筋であり、出発点は小説投稿サイトで累計1400万部となった。

2013年までタイトルに「異世界」と「転生」を含むライトノベルは年間10点ほどだったが2014年以降急増、18年に過去最高の567点に増えたとする。

記事ではライター前島賢(以下敬称略)の「ゲームのような世界観への導入として異世界転生は使いやすかったのだろう」とし、また関東学院大の中西新太郎(社会学)は、「非正規雇用が増え、学生の関心事はブラック企業を避けること。SNSの普及で人間関係が常にある息苦しさから匿名の『裏アカ』を持つなど大人以上に気疲れしている。」とみる。

異界転生ブーム以前は「らきすた」「けいおん!」等日常系と称されるジャンルが人気だったが、中西は「ほのほのとした日常が憧れだったが、現実の日常は窮屈になりすぎて最早リアリティが無くなった。異世界で冒険ではなくスローライフを送る作品が多く、ほのほの日常を現実ではなく異世界に求めている。」記事のまとめとして記者は「若者の生きづらさが異世界転生願望につながっている」とする。¹⁾

また2015年度電気・情報関係学会九州支部連合大会における発表で本多優也、伊東栄典は小説投稿サイト「小説家になろう」の上位100位の多くが異界転生関連であると指摘している²⁾。

2. 転生系ライトノベルに対する本校学生の反応

それでは本校学生は総合メディアセンター配架であるかないとを問わず、異界転生系ラノベについてどんな感想を持っているのだろうか?

以下2018年秋から2019年7月の間に上級生、下級生に対し個別もしくは2~3人のグループに分けて聞き取りを行った結果の報告である。いずれの学生もライトノベルとゲームを好むと自他ともに認める人々であり、その分掘り下げた質問に対しても考えながら答えてくれた。

2年生A君「転生について簡単に異世界に入り込めてしまう設定には危うさを感じる。但し既に異界転生ものは普及しており、作者による安易な設定として割り切っている。むしろ異界転生ものが多すぎる事が安易さと云う点で問題」

主題からやや反れるが、A君は2013-14年頃(小学校上級-中学校)まではオタクと呼ばれてクラスの少数派だったという、ライトノベルもカバーを掛けなければ読めない雰囲気だったのが、「進撃の巨人」のヒット以後が大きな転機となり肩が狭くなったという。

[†] 一般教育科
General education

同じ答えは1年生女子のBさんも同様だった。Bさんの場合「親もオタクだった」とのことで家庭では普通に話題に出来たゲームやラノベに関する事柄が学校ではむずかしく大変だったという。

次に1年生男女4人に対して2019年7月に行った聞き取りから。

Cさん「転生ものは現実離れしているから面白い」

Dさん「ネット系のマンガにも転生ものは多い。ドラゴンクエストなどのゲームの設定を模倣している。」

E君「作者は転生後の人生に重きを置いている、作者自身が現実の世界に満足できないからではないだろうか？」

F君「確かに投稿小説サイト『小説家になろう』には転生ものが目立つ」

F君に対し先の「スライム」を例にとり主人公に40代中年サラリーマンの設定が多い理由について尋ねた所、作者が既に40代の人が多くSNS環境に不慣れなため、又作者と近い世代にすると感情移入がしやすいのではないかと意見だった。

C-F君はかなり屈託なく答えてくれた印象だった。既に異界転生の設定に慣れていてその安易さを寧ろ楽しんでいる様子だった。

次に5年生男子G君からの聞き取り、G君は自らかなりのラノベファンと称しており、そのため配架中の約400冊のラノベリストから転生ものを選び出してほしいという当方のお願いに対し、これを引き受けてくれた。

然し結果は彼が図書館のラノベから選び出した転生ものはわずか16点(4%)に過ぎなかった。また日常ほのぼのの系に対してもはやリアリティを感じられなかったという意見は彼からも出た。

3. おわりに

転生を内容として入るが、多くの作品では死を重く扱ってはならず、言い換えれば場面転換の安易な装置となっている。

ストーリー上でも転生後の異界での動きが中心であり、このため過度に生きづらさと結びつけるのは後考を待つ必要があるだろう。

但し他方で現実社会の生きづらさもまた実情であり、中堅社会人である30-40代の人々にとり一定の説得力を持つことが上記のような大きなヒットの背景となっている事もうなづける。

今後もさまざまな学年、状況について追跡していきたいと考えている。

おわりに聞き取りに協力していただいた学生諸君に感謝を申し上げたい。

文 献

- 1) 朝日新聞 2019年7月2日付記事
- 2) 本田、伊東「小説投稿サイトの小説におけるキーワードの多様性分析」発表番号10-1P-11 2015年度電気・情報関係学会九州支部連合大会

台湾の図書館、文学館

山館 順[†]

2019年3月に作家内田百閒の昭和14年(1939)秋の台湾旅行関連の文献調査を目的として台湾各地の図書館、文学館を廻った。本稿ではその内国立台湾図書館(台北)と、国立台湾文学館(台南)の資料展示をはじめとする状況について報告したい。

1. 国立台湾図書館

台北市の地下鉄MRTで永安市場下車、南国の緑叢が深い駅近くの公園の一角に6階建ての近代建築が建つ。この館では昭和13-14年当時の総力戦体制下で推進された木炭エンジン導入が砂糖黍工場の軽便鉄道においてはどのように具体化していったのかを示す史料「台湾私設鉄道業務研究会議事録」の電子化資料を閲覧した。

カウンターに旅券を預けると快く許可してくれ、階上の日本語資料開架の位置も教えていただいた。

資料から伝わって来るのは、既に燃料用の輸入ガソリン価格高騰の為やむを得ず性能のはるかに劣る木炭エンジンを導入することについて、研究会を主宰する当時の総督府鉄道部の技術者も含めて参加者は誰も喜んでおらず、南方戦線への兵站基地として重要視された台湾に於いて戦時体制に振回されることへの不安だった。

USB持参ならばデータの複写も可能との親切な対応をいただいた。

文献調べののち6階の台湾学研究センターの特別展示「統治者の錬金術」を参観、館蔵資料から清朝と日本の地元特産品専売制関連の書籍を集め展示している。清朝統治の19世紀最初に欧米側が着目したのはクスノキから採れる樟脳であり、化学薬品の普及以前には洋服の防虫

剤として不可欠の商品だった。樟脳への課税を廻りイギリスと清は対立、ついに自国軍艦の護衛の下英国側が樟脳を持ち去る事件へと発展し、清は専売制を廃止した。

日治期になると民政長官として活躍した後藤新平が台湾財政の自立を目指して再び専売制導入に乗り出す。

当初は阿片と塩、やがては石油、アルコールに及び専売制は大きな利益を上げ台湾の財政を支えた。

大正昭和期の文献である館蔵書籍「久須乃木」、雑誌「専売通信」が並び、戦後中华民国期以降の専売制研究書がそれに続き、地元経済の基盤と豊かなしまの資源をめぐる各国のせめぎ合いの状況が通観できるようになっている。

一階の玄関に戻り気が付いたのは案内カウンターの壁に掲示された大きな二枚の水彩画、二枚とも日本の女流画家いわさきちひろ(1918-74)作の幼児の表情を描く。

終生子供と平和を主題とし続けた画家と思いを共にする館の姿勢を感じた。

2. 国立台湾文学館

台湾新幹線で台北から南下、戦前の都市計画の美しい街並みの残る台南市の中心部に旧台南州庁舎として大正5年(1916)竣工した建物は西洋古典様式の重厚で美しい文化財建築である。周辺の旧警察署は内部改装後美術館となって再生したが、こちらは文学館になった。

日本語パンフレットは「そして戦後の外来政権統治による時代の苦難のなかであっても、多様な発展を遂げた独自の文学を保存し、展示することにあります。」と設立目的を記しており、表現に台湾民主主義の成熟と誇りを感じる。

本来はマレー系文化の土地だったが、「美麗島」ともいわれる豊かな特産物に各国が注目、ポルト

[†] 一般教育科
General education

ガル、オランダ、イギリス、清朝、また日本と様々な民族の対立と共生が特徴ある文化を生み出してきた。

残念ながら日本語の展示説明は詳細なものではなく、展示作品の内容を十分味わうことが出来なかったが、あらずじ程度は了解できた。

日本との関係についてだけでも警察官に騙されて度量衡を偽ったとして処罰された農民が復讐を果たす頼和の「一程秤子」(1926年)、昭和十年頃に当時郊外だった高円寺界隈に住んでいた台湾からの留学生の人間模様を描いた「東京郊外浪人街 - 高円寺界隈 -」(1941年)など多彩な魅力を持つ作品群が紹介されている。

在留日本人作家では会津若松出身で総督府の機関紙とも呼ばれた台湾日日新報第二課長だった西川満(1908-99年)が主催していた文芸雑誌「媽祖」がある。

地階の参考資料室では戦前の上記新聞復刻版を閲覧することが出来る他、日本語の文学研究書も豊富である。

自分はここで、台湾日日新報1939年11月19日付の西川署名による文化文芸欄記事「百鬼園先生台北行状記」を閲覧した¹⁾。

従来は明治製糖重役で百間の同郷の先輩である中川蕃の招待による遊山の旅と云った印象だったのだが、記事によると西川は前年に東京の百間居を自ら訪問して訪台を招請するなど周到な準備の上での台湾旅行だった事が分かる。

11月14日には百間を囲む形で西川をはじめ台湾の文学者黄時得、比較文学研究者で台湾大教授の矢野峰人等地元文学を代表する人々が集まる会合が設けられたが、帰朝後の百間は台湾関連の文章や対談の発言において政治性はないものの日本統治に対する間接的な批判や皮肉を繰り返しており、総督府の意向につながる西川等の思惑に迎合するのを潔しとしない姿勢を取ったことが窺われる²⁾。

この旅中で百間は戦後に知られることとなる阿房列車という用事の無い旅を着想したが、その背景には周囲への迎合を嫌う狷介な作家の態度

と、それを誘発するような現地日本人の思惑があったことが認められる。

再び一階に出ると台湾でも若者の活字離れは顕著のようで、日本国内の文学館で行われている様なSNSを用いた作家の人気投票企画がここでも実施されていた。

ただし作家や登場人物のイケメンキャラクター化の他、QRコードをスマホに読み込ませて各作品の人気総合ランキングを競う「文学PK戦」と題したイベントは何とか文学を身近なものにしたという館の真剣な姿勢を感じた。

パンフレットには台湾文学の全体的な特徴として先ず豊かで多岐にわたる自然の恵み、次に多民族、多文化間の相克と共生、それらを経て日治時代に文学の多様な現代性の段階に入ったとまとめる。

1980年代以降の女性文学や社会の少数者を主題とした作品群にも興味を持った。

複雑な言語環境の中で育まれてきた台湾文学だが、その中には見事な表現で日本語による作品を実現した郭水潭(1907-95)の「海は広いよ」も展示されている。

台湾の文学が今後どのような果実をもたらすのか気になる所である。蛇足ながら表通りの南国の街路樹を見ながら館の喫茶室で休憩するのもまた一興だった。

文 献

- 1) 台湾日日新聞影印本185冊, 1994年復刻。
- 2) 「百間座談」, 1992年福武文庫, 127-138頁

報 告

総合メディアセンター主催講演会報告

高専生と選挙 ～選挙に行くと何か変わるんですか?～ 講師 一般教育科 神戸和佳子

2年機械電子工学科 河地 悠馬, 一般教育科 山館 順



報告

総合メディアセンター主催講演会報告

高専生と選挙～選挙に行くと何か変わるんですか？～

講師 一般教育科 神戸和佳子

2019年12月 サレジアンホールにて

(報告) 2年機械電子工学科 河地 悠馬, 一般教育科 山館 順

今回の講演会のテーマは「高専生と選挙」だった。近年、若い世代の投票率の低さが問題視されている。平成29年の衆議院選挙では20代の投票率が約34%と過去最低を記録した。私自身、選挙にさほど興味がなかった。この状況でどのような話がされるのか興味を持ち講演会に参加した。

講演会では、選挙についてと参加の形についての講演があった。選挙の講演では、初めに学生から意見を言う場面があったのだが、その中で1つ私が納得できるものがあった。それが投票しないことも1つの意思表示ではないかと云う意見だ。次々と不祥事がニュースに載り、不透明な面ばかりが目立つ今の政治で、どの政党に投票しても同じではないかと云う意思を示しているのだ。

それに対して講演して下さった本校の神戸和佳子先生は、どんな相手でも投票するべきだと講演された。なぜなら、政治家は当選するために、自分に多く投票してくれる世代に有利な政策をどんどん進めていってしまうため、投票しなければ若い世代は益々暮らしづらくなってしまふからだ。

この2つの意見はどちらも一理あると思う。しかし、その上で私は投票するべきだと考える。なぜなら、投票しないという形で意思表示したとしても、結局自分たちの生活が苦しくなるだけだからだ。その上で投票する時に自分が政策に何を求めるのかを考えてみるために毎日新聞ポータルサイトのえらぼーとというサービスを試してみた。その結果、外交関係に関してはほとんどの参加者が強気に対応すべきだという意見で一致し、消費税も上げないでほしいという意見で一致した。

その一方で衆議院の解散や、アベノミクスなどについてはかなり意見が割れた。若い世代にとって、消費税や外交関係などは割と関わりやすく、身近な話題なのに対し、衆議院の解散やアベノミクスはあまり関わりのない話題なのかと感じた。

次に参加の形についてのお話があった。そこでは、ロジャー・ハートの「子供の参加の梯子」について説明された。これによると参加には8段階あり、段階が上がるごとに強制的な参加から自主的な参加になっていき、より良いものになっていくということだった。その後、身の回りの行事などがどの段階の参加なのかを振り分けてみるという作業を行った。すると段階が高く自主的な参加が行われている行事ほど盛り上がっているということが確かめられた。参加と云う言葉をこれまで深く考えたことなかったので印象的だったのと同時に、自分が何かに参加するときは、何段階目の参加なのかを意識していこうと思った。

今回の講演を聞いて、私達の生活を良くしていくためには、政治家は若い世代でもわかるように具体的な情報を公開して説明する責任があり、若い世代はそれを知り理解しようとする義務があると感じた。今回感じたことを今後活かすためにまず自分が出来ることとしてニュースや新聞などを見て理解しようとすると思う。また若い世代にもわかるように情報を発信するにはYoutubeなど若者が良く見るもので発信していくべきだと感じ、行動していこうと思った。

コラム

靖国神社と「モニュメント」(1) 「西洋モニュメント」としての大村益次郎像

電気工学科 米澤 一孝

靖国神社と「モニュメント」(2) メディアとしての大村益次郎像に込められた意味

電気工学科 米澤 一孝

育英高専からサレジオ高専へ～ 1987年～2019年の思い出～

保健室 杉山 りつ子

【連載】図書館の本棚から (第13回) 「上海游记」芥川龍之介」

一般教育科 山館 順

【連載】「メディア」博物館探訪 (第13回) 「ハマセン台湾鉄道館」

一般教育科 山館 順

【連載】「メディア」博物館探訪 (第14回) 「原鉄道模型博物館」

一般教育科 山館 順



靖国神社と「モニュメント」(1)

「西洋モニュメント」としての大村益次郎像

電気工学科 米澤 一孝

一度でも靖国神社を参拝された方であれば、大鳥居から入って真正面に立つ「大村益次郎銅像」を目にしていることでしょう。大村益次郎は、旧長州藩出身で、戊辰戦争で新政府軍を率いて旧幕府軍を鎮圧したことで特に知られますが、戦後も明治政府の一員として、陸軍の創設などでその手腕を発揮しました。

また、大村は、戦死者を弔う施設創建を計画、実行したのですが、その施設こそ東京招魂社、すなわち現在の靖国神社です。それゆえ、大村が靖国神社において非常に重要な人物であることに異論はありません。とはいえ、令和の時代となった今もなお、戦死者でない大村の銅像が参道の中央にそびえ立つ姿にある種の違和感を覚えるのは、初めて靖国を訪問したときの筆者だけではないでしょう。

今回は、この大村銅像という「メディア」設立の経緯について考えてみたいと思います。

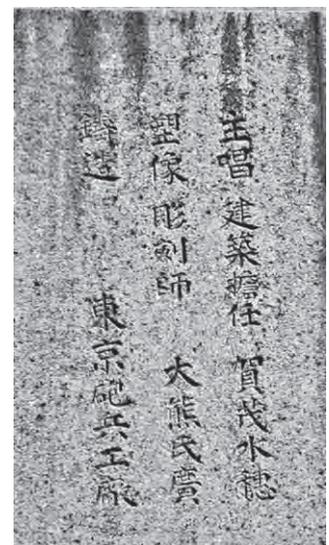
大村銅像全体は、花崗岩の石台に、三条実美による大村追悼文が鋳出された円柱がのり、さらにその上に青銅製の銅像彫刻が据えられ構成されているのですが、その石台に、

主唱 建築擔任 賀茂水穂

塑像 彫刻師 大熊氏廣

鑄像 東京砲兵工廠

とあります。この大村像制作により、日本国内初の本格的な西洋式銅像作成者として、その名を歴史にとどめることになった大熊の名があるのは当然ですが、他にも日本陸軍の兵器製造を担った東京砲兵工廠によって円柱が鋳造されたことや、のちの2代目靖国神社宮司、賀茂水穂が銅像建築に主導的な役割を果たしたことがわかります。



大村銅像石台部分 (筆者撮影)

明治15(1882)年10月に開催された大村益次郎「紀年祭」で、賀茂水穂らは、靖国神社内での大村「記念銅像」建設を提案し、大村の高弟、山田顕義らの協力の下、翌明治17(1884)年より何度か、銅像建設費の寄付を募る広告を、おそらく水穂自らが新聞に掲載したと考えられます。

この広告では、大村のような功績のあった人物について、人々が集まるところに、欧州「モニュメント」すなわちその記念碑を建設して 後世までたたえるため、その建設費の寄付が呼びかけられました。つまり、水穂らは、靖国神社で、大村益次郎を「西洋」式に崇め奉ろう、と呼びかけているのです。

ところで、この「モニュメント」は水穂らの思いつきではないと思われます。というのも、明治9(1876)年に、「官社へ銅石像設立之儀ニ付伺」という文書が、大村銅像の撰文を書いた三条実美宛に提出されていますが、この文書に「西洋モニュメント」なる語が記されているからです。

((2)につづく。)

参考文献 坂井久能「大村益次郎銅像と賀茂水穂」『國學院大學研究開発推進センター研究紀要 12号』
國學院大學研究開発推進機構研究開発推進センター、2018年 ほか。



靖国神社と「モニュメント」(2)

メディアとしての大村益次郎像に込められた意味

電気工学科 米澤 一孝

「官社へ銅石像設立之儀ニ付伺」という文書は、近代の功臣を祀る神社を創建する際、社殿を縮小して、「西洋モニュメント」のような「祭神の銅石像」を作る事で、その功績をたたえる許可を求めたもので、翌明治10年(1877)年に認可されました。賀茂水穂らは、この「西洋モニュメント」に目をつけたと思われませんが、なぜ水穂らは、大村益次郎銅像建設にのめり込んだのでしょうか？

賀茂水穂は、天保11(1840)年、遠江国(遠州 現 静岡県浜松市周辺)の金山彦神社(現 金山神社)の神職、賀茂軯音の子として生まれました。水穂など軯音の子供達は、浜松出身の賀茂真淵派国学研究会に参加していました。そんな折、大政奉還後の徳川軍と新政府軍との戦いで、新政府軍優勢とみた研究会メンバーは、慶応4(1868)年1月に、徳川慶喜追討のために編成された新政府軍に従軍する有志を募り、2月には、賀茂水穂やその兄弟も含めた神職を中心に「遠州報国隊」を結成しました。報国隊に限らず、駿河(駿州)や伊豆(現在の静岡県東部及び中部)で神職中心に結成された、駿州赤心隊や伊豆伊吹隊は紆余曲折を経て官軍に参加を許され、大村益次郎の指揮下、上野戦争に参戦し官軍の勝利に貢献しました。ところが、戦後、彼らの地元である静岡が敵方であった徳川氏の領地となり、そのため、徳川家の旧家臣が報国隊や赤心隊のメンバーを襲撃する事件が発生します。そこで、身の危険を案じた元隊員大久保春野らが明治元(1868)年の12月に大村に掛け合った際、大村は「招魂社を創建し、そこに神職でもある隊員たちを移住させ祭典を執り行わせる」という妙案を編み出し、翌明治2(1869)年6月に東京招魂社を創建して実現させました。これこそ、靖国神社創建の真の理由なのです。

しかしながら、大村は創建後まもなく襲撃され帰らぬ人となり、その後、山県有朋が軍の実権を握ったため、招魂社は大きな後ろ盾を失いました。そのため、予算は削減され敷地も大幅に縮小、報国隊出身の神職らも冷遇されましたが、このような逆境において、賀茂水穂は、海軍に所属しつつも宮司に就任する以前に大村銅像建設の主唱者になったことから明らかなように、靖国神社と改称した後も関わりを保っていました。その甲斐あってか、明治24(1891)年、水穂はついに靖国神社宮司の座を射止めます。日清・日露両戦争時の奮闘に加え、招魂社を皆が楽しめるような施設にしたいという大村の意思通り、相撲や花火など皆が楽しめる娯楽を参拝客に提供するなどして、靖国神社の社会的地位向上に大きな役割を果たしました。

また、賀茂水穂は、大村銅像建設計画と同時に、報国隊のルーツである賀茂真淵ら国学者の地位向上をもくろみ、東海寺(東京都品川区)にある真淵の墓「改修」に取り組んでいます。ただ、場所を移す際に鳥居も増設された現代の姿は、仏式だったと思われる江戸期とは大きく異なっており、もはや「改修」というより神式「モニュメント」への「改造」とした方が適切でしょう。さらに、地元の浜松市に報国隊の記念碑、すなわち「モニュメント」を作る活動にも積極的に関与しました。水穂は、賀茂真淵及び報国隊の業績を後世に伝える事には余念がなかったのです。

こうした事実により、「モニュメント」として大村銅像は、元報国隊員らを冷遇する軍の主導部に対して、命の恩人である大村の意志を継承して靖国神社を発展させるのだ、という強い決意を伝える「メディア」であると考えられないでしょうか？



育英高専からサレジオ高専へ ～ 1987年 - 2019年の思い出～

保健室 杉山 りつ子

私が1987年に着任してから32年の歳月が過ぎ、その間には様々な変化があり、現在も変化の流れは続いていると感じています。

特筆すべきことは2005年4月に後者が杉並区からここ町田市に移転し、学校名が育英工業高等専門学校からサレジオ工業高等専門学校(以下高専と略記)に変わった事です。育英高専(1987年-2005年)の思い出とサレジオ高専(2005年-2019年)について個人的に感じる事を書かせていただきます。育英高専時代着任したのは古い過去の事になります。

学校の敷地がとにかく広く、体育館、食堂、購買、部室、グラフィック工学科、電気工学科、デザイン工学科の3学科の棟がそれぞれ単独で存在していました。具合の悪い学生の連絡を受け探しに行くのですが、学科の建物が保健室の在った本館から離れている為に場所が分かりにくくたどり着くのに一苦労でした。イタリア語の名称のカーサポンテビアンカは単に白く塗られた普通の建物でしたが、おしゃれなネーミングに愛着が持てました。

とても珍しいもの、それは緑色のパリの地下鉄車両一両がグラウンドの脇に置かれ、内部は狭いのですが雰囲気のある喫茶店「メトロ」の名で学生でにぎわい、昼時には神父である伏木先生がエプロン姿で腕を振るっていて、メニューのスパゲッティがおいしくおなかを満たしてくれました。

伏木先生は注文した学生の食欲に合わせていつでも大盛りサービスが愉快でした。

自然が豊かな校内は季節が身近に感じられ、正門奥のロータリーに白樺、玄関脇に吉野桜、中庭にヒマラヤスギ、グラウンドを囲むようにイチヨウがありました。春の美しい桜、緑が生い茂り、晩秋には黄葉したイチヨウで黄色一色に染まり、中庭の池ではつがいの渡り鳥が羽を休めている事もありました。他にも不思議な都市伝説がまことしやかに流れていて、デザイン科棟の地下のボイラー室で当時の校長ヘンドリックス神父がパンダを飼っているという学生間の噂で、確かめるため見に行ったことがありました。ありえない「嘘」に笑えた、どこかにゆとりのあった時代でした。

学校行事でも重要な入学式は今もある下井草教会、卒業式は目白のカテドラル関口教会で行われ、神様の護りと祝福をいただき、学生たちは厳しい社会へと旅立っていきました。

ヘンドリックス先生、平山吉晴副校長の笑顔は今の脳裏に焼き付いており、学校にはお二人のご尽力と功績があったと思っているのは私だけではないでしょう。

町田キャンパス移転後、杉並旧キャンパス跡にはマンションが建ち並び昔の面影はありませんが、敷地の一部には法人事務所のサイテックが今も健在で、デザイン科だったヘンドリックス先生による作品が残されており、現在も存在感を放っています。

2005年度からは町田市の現キャンパスが船出し、希望を託した新天地での学校が始まりました。移転計画発表から移転先、学校名、校舎建設など、今にして思えば限られた期間内で壮大な事業が実施された事に感慨を覚えます。

新校舎は安全、清潔で機能的な造りになっており、人工芝のグラウンドはまだ珍しくてワクワク感があり、学生たちにとりさらに充実したキャンパスライフを過ごせそうに思いました。

2011年3月11日の東日本大震災では町田で激しい揺れを感じたもののキャンパスは無事で、かえって帰宅後の我が家が大変な状況になっていました。

新校舎はエレベータ設置のため担架、車いすの運用がしやすく、廊下の見通しが良いので教室配置が分かりやすく、緊急時の学生対応にも早く駆けつけることが出来るようになりました。

本校の特色である「モノづくり」のコンセプトのもと、以前以上にプロジェクト活動が盛んとなり、例えば鳥人間コンテストでは皆の想いを乗せて風によって琵琶湖を飛行した瞬間がTV放映されました。

ソーラーカーのコンテストではオーストラリア大陸縦断走破を果たしたこと、NHK ロボットコンテストでは二足歩行ロボットががんばりました。他にもさまざまなコンテストや大会に出場し、育英時代よりも学生たちの活躍の場拡がっています。

グローバルな人材育成を目指した国際交流プログラムでは、短期語学留学、東チモールでの海外ボランティア活動などの場で異文化に触れながら視野を広げています。

2020年は育英学院創立85周年、杉並旧キャンパス70周年、町田キャンパス15年目になります。

「神は愛なり」「技術はは人なり」「心理は道なり」の校是のもと、今後の技術革新の目覚ましい時代において社会変動にも対応できる技術者を養成するための様々な変化が求められています。

社会の少子化が進む中で学生募集と定員を確保しなければならない状況であり、学校の特色を掲げ、業績をアピールし、選ばれる学校になるべく学校全体で努力している状態です。

保健室は15歳で入学し、20歳で卒業していく学生たちの心身の成長過程をじっくりと見る事ができる場です。青春時代は人生の実験室であり、成功だけでなく失敗を通じてこそ学べる価値や体験についても学生の声に心を寄せ、応援しています。

時折卒業生が家族を伴い子供を連れて顔を見せてくれることがあり、つながりを感じてとてもうれしくなります。自分の子供に誇れる学校、何時までも青春の一頁として語られる学校としてこれからも本校が変化成長することを願っています。



【連載】図書館の本棚から（第13回）

「上海游記」芥川龍之介

一般教科 山館 順

大正10年（1921）、3月からほぼ半年をかけて作家芥川龍之介は（1892-1927）大阪毎日新聞特派員として辛亥革命から十年を経た中国大陸を旅行し、克明なルポルタージュを新聞雑誌誌上に掲載した。

それらは未だ欧米日本の列強に圧迫されつつも新たな道を模索していた中国社会とそこに暮らす人々、現地在住の日本人、そしてアジアと日本の関わりについて貴重な記録となっている。

本号では先ず上陸までとその後強烈な印象を作家に与えた上海の記録から紹介したい。

感冒のまま乗船、門司を出航した日本郵船筑後丸（2563t）は、玄界灘で春の時化に遭い「寢床に横になった私の耳には、食卓の皿やナイフなどが一度床へ落ちる音が聞こえた。しかし私は強情に、胃の中の物が出そうになるのを抑えつけるのに苦心していた。」翌朝は快晴、上海で見たのは外国租界に象徴される西洋文化が優位に立つアジアの都市というふしぎな光景だった。

芥川自身も上海西洋文化の華やかさに目を奪われる「仏蘭西公園やジェスフィールド公園は、散歩するのに持って来いだ。殊に仏蘭西公園では、若葉を出した鈴懸の間に、西洋人のお袋だの乳母だのが子供を遊ばせている。それが大変綺麗だったっけ。」

しかし「唯此処の西洋は本場を見ない僕の日にもやはり場違いの様な気がするのだ」また現地に暮らす日本人を「皆貧弱だね」とみる。

数年前に集結した第一次大戦終結後から急速な高まりを見せていた中国側による民族自決と民主化のうねりについては、旅の疲れでしばらく入院した現地の日本人経営の里見病院院長が作った俳句を紹介することで間接的な自らの支持表明を行っている。

炭をつぎつつ胎動のあるを語る

だが同時にこの句が表現しているどこか他人事のような距離感が示すように、自分が一時滞在の旅行者にすぎないことも彼は理解していた。

上海滞在中には清末の大官で後満洲国総理となった鄭孝胥、孫文と併称された辛亥革命の中心人物で古典学者の章丙麟、日本留学経験のある若い運動家の李人傑らと会見、さらに繁華街歩き、芝居見物、講演と精力的に日程をこなしている。

西洋文化が優位に立つ現地に暮らす日本人は日本からやってきた物に対して必ず上海の自慢をする。

建築、道路、料理、娯楽未ずれも日本よりも進んでいる、と。

しかしそう言っていた男が亡くなったとき、遺言状には遺骨は必ず日本に埋めてほしいと書かれていたと作家は記す。

その男「Xの矛盾は笑うべきものじゃない。我我はこう云う点になると、大抵Xの仲間なのである。」

百年後の今日においてもなお作家の指摘は古びていない現実があり、日本人とは何かを考える上で一つの物差しを提供してくれている。

【芥川龍之介全集第6巻「上海游記」】

初版は1971年だが丁寧な注解があり読みやすくなっている。後にちくま文庫版全集の原本となった。918 アク6



【連載】メディア博物館探訪（第13回）

ハマセン台湾鉄道館

一般教科 山館 順

正式な漢字名称は「哈瑪星」だが、地名の由来は日本語の「浜線」、1941年以前はこの場所に高雄駅が建ち、台湾南部の交通と経済の一大中心地であり、その後近くの高雄港埠頭と結ぶ臨港線の駅でもあったことに因む。

戦後は台湾鉄道局の管理下でセメント工業の積出港だったが、20世紀末に廃線となり現在は宏大な貨車の操車場にかつての台湾縦貫線の主力蒸気機関車 CT250 型（旧日治時代は C55 型）が静態保存されている。

展示棟建物はかつての倉庫を改装したもの、鉄道博物館としては日本でもおなじみの大型ジオラマの模型もあるが、鉄道が台湾近代社会に与えた巨大な影響についても分かりやすく解説する。

明治時代の日本と同様に 1908 年完成した主要幹線である南北縦貫線開通がそれまで地域ごとに分かれた社会が人々の意識をつなげ、一つの台湾と云う認識を広める事となったと説明にいう。

1930 年代日活制作のトーキー映画「愛の一家」の映像を流し、ロケ地となった台中駅の改札口と線路、扇型車庫を映し出す。

総力戦体制下で制作された「鉄道部の歌」の歌詞では「使命は重き東亜の栄え、ああ誇り高き文化の先駆、見よ鉄道は大地を拓く」と歌う。当時陸上交通における先端技術であるばかりでなく、文化面でも鉄道員による文芸雑誌が刊行されるなど文化的にも活発な動きがあったことを示す。

ジオラマの鉄道模型を見下ろす二階回廊部分の展示では地元高雄の近現代の繁栄についてセメント工業と、輸出積出港としての性格から解説、19世紀には南部の小さな漁港だったが、砂糖輸出最盛期の 1920 年代には高雄が積み出しをほぼ独占、1939 年の貿易額はこの間 40 倍に成長した。

小さな別室では 1931 年 5 月わづか五日間の会期で開催された「高雄港勢展覧会」について当時の絵葉書と報道写真を暗くした室内にパワーポイント投影の形で解説。

開催当時華やかなネオンで彩られた入口アーチが入場者の目を奪ったという説明と対照的に BGM に流れるソロピアノの旋律は長調だが物悲しく寂しげな曲調。

博覧会の束の間の輝きののち大戦末の空襲、そして戦後は内紛の舞台の一つとなり、館の周辺地区も被害をこうむった事が淡々と示される。

単なる鉄道趣味に終わらないこの地の近現代における変転について分かりやすく教えてくれ見応えがあった。

【哈瑪星台湾鉄道館】台湾 高雄市鼓山区 <http://hamasen.khm.gov.tw>



【連載】メディア博物館探訪（第14回）

「原鉄道模型博物館」

一般教科 山館 順

JR 横浜駅の西口から徒歩5分ほど三井ビル二階に世界でも有数の鉄道模型製作者、鉄道愛好家だった原信太郎（1919-2014）のコレクションと関連史料を中心とした博物館である。

幼少期より鉄道を愛好、小学6年生で模型作りを始め、東工大卒業後事務機器メーカーコクヨの開発担当として300以上の特許を取得、模型総数6000両、膨大な映像と図書資料を残した。

専門分野でも若手研究者後援の基金を設立する一方、2012年博物館をオープンさせた。

展示解説によると原の鉄道模型は通常と異なり鉄のレールと車両を使用、架線から電気を集めて専門技術を生かすことで惰力走行を実現した。館のジオラマはよくあるような軽い音ではなく、実物に近い走行音を立て再現されたかつての横浜の市街地の中をうごいている。

マナー等で苦情の寄せられることも多い鉄道ファンながら、こういう日本人もいたのかとその情熱に圧倒される。

原は自宅近くの田町操車場に打ち捨てられていた明治末に私鉄九州鉄道がアメリカに発注し搬入されながらついに一度も営業運行されることのなかった幻の列車「或る列車」を実際に見て魅了され、詳細なスケッチを描いた。

原制作の模型は真鍮の壁面が輝き、下張は木製、グランドピアノを置いたサロン、スタンドグラスの窓などHPによれば「少年の心を虜にした」

現在はJR九州が車両デザイナーの水戸岡鋭治の手で車両を復元、完成させている。

陸上輸送手段として斜陽化しつつある鉄道だがそこにかかる凄まじい情熱を感じざるを得ない。

映像展示の中で老いた原自身が旧西独連邦鉄道で際の幹線を走る電気機関車を楽しげに運転させてもらっている場面がある。

また廃止直前のオリエント急行乗車の折には東西冷戦下の70年代のため撮影中に諜報機関と間違われてユーゴスラビア当局に一時拘束された挿話が紹介される。

日本人と技術との幸福な結びつきの一代表例と云えようか。

自分は作家内田百閒が1939年の台湾旅行で乗車した砂糖黍工場の軽便鉄道について、何か手がかりはないかと一昨年に同館で開催された特別展「ナローゲージ王国台湾の軽便鉄道展」の資料を探す目的で訪問したのだが、産業技術、鉄道史は勿論、日本人と近現代技術との関わりを考える上で重要な視点を提供してくれる施設だと感じた。

そして第13回の「ハマセン鉄道館」にも同じく、鉄道というこの不思議な技術の塊が人々の心にもたらした影響の強烈さが放つ不思議な空気が存在した。あらためて鉄道の精神史と云った事について考えたくなった。

【原鉄道模型博物館】 <http://hara-mrm.com/sweettrain/index.html>

資料編

各種データ

[1] 図書館・情報館関連

- (1) 入館者数
- (2) 図書館蔵書冊数
- (3) 図書館貸出冊数
 - (a) 分野別貸出冊数
 - (b) 月別貸出冊数
- (4) PC 教室利用状況
PC 教室（122, 123 室）利用状況

1. 各種データ

[1] 図書館・情報館関連

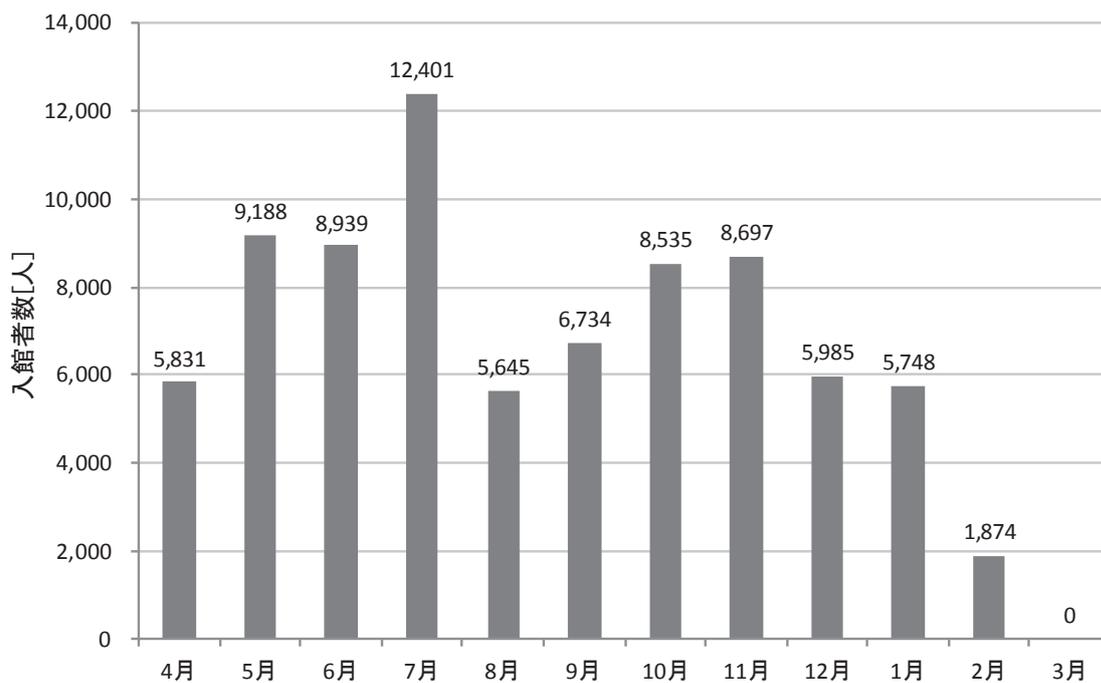
(1) 入館者数

2019年度開館日数 226日

2019年度入館者総数 79,577人

月	入館者数 [人]
4月	5,831
5月	9,188
6月	8,939
7月	12,401
8月	5,645
9月	6,734
10月	8,535
11月	8,697
12月	5,985
1月	5,748
2月	1,874
3月	0
計	79,577

月別メディアセンター入館者数

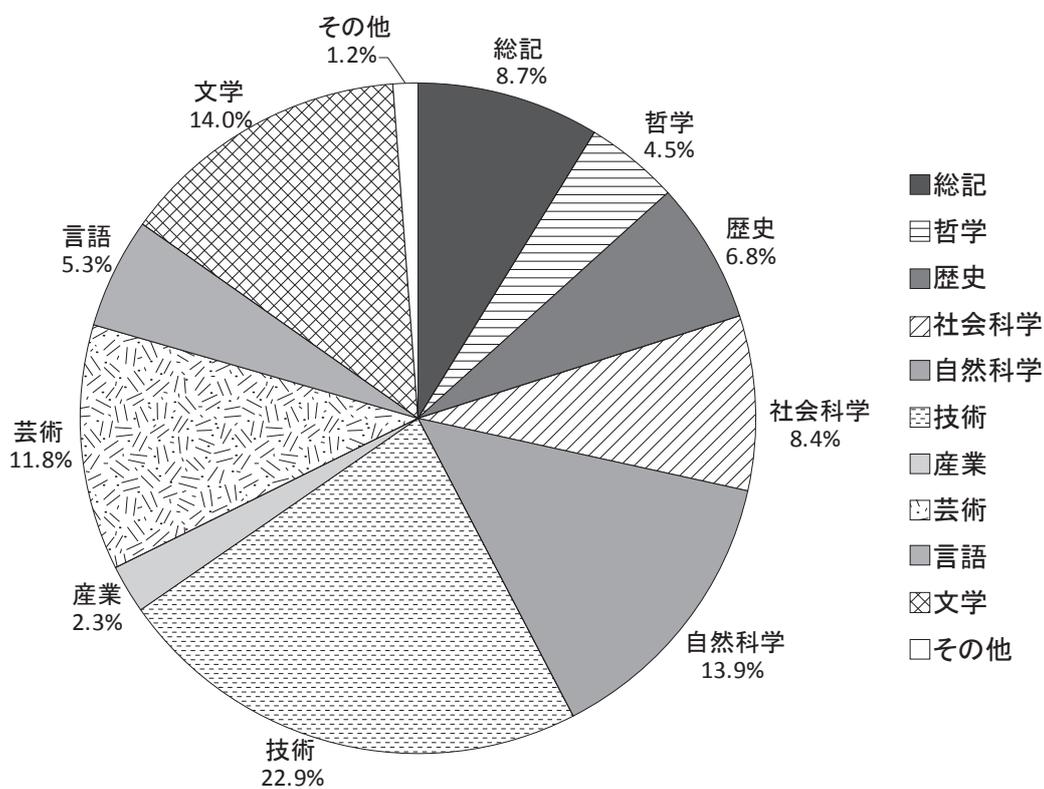


(2) 図書館蔵書冊数

2019年度 蔵書冊数

分野	蔵書冊数 [冊]	百分率 [%]
総記	4,604	8.7
哲学	2,373	4.5
歴史	3,583	6.8
社会科学	4,433	8.4
自然科学	7,332	13.9
技術	12,069	22.9
産業	1,228	2.3
芸術	6,238	11.8
言語	2,807	5.3
文学	7,362	14.0
その他	625	1.2
合計	52,654	100.0

分野別蔵書冊数

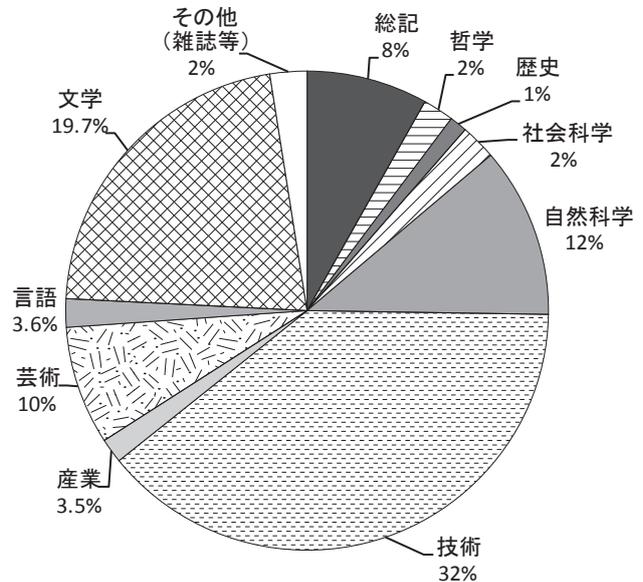


(3) 図書貸出冊数

(a) 分野別貸出冊数

2019年度

分野	貸出冊数 [冊]	百分率 [%]
総記	348	8.1%
哲学	89	2.1%
歴史	50	1.2%
社会科学	103	2.4%
自然科学	492	11.5%
技術	1,670	39.0%
産業	71	1.7%
芸術	343	8.0%
言語	82	1.9%
文学	931	21.7%
その他 (雑誌等)	106	2.5%
合計	4,285	100.0%



(b) 月別貸出冊数

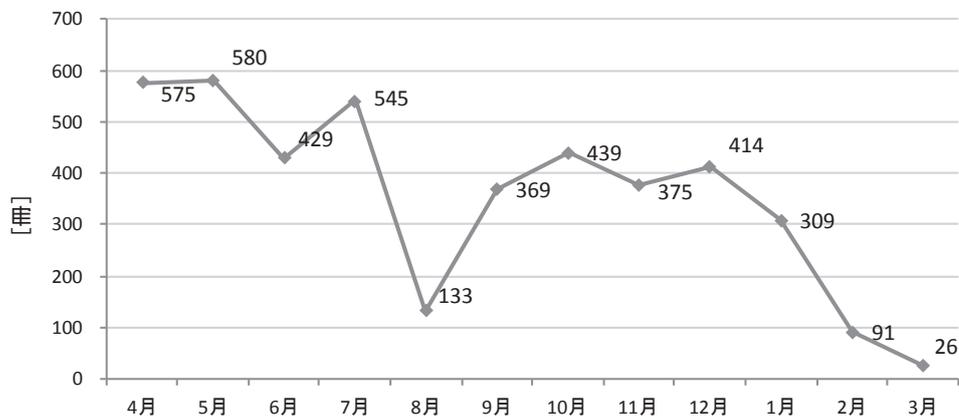
2019年度

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
冊数	575	580	429	545	133	369	439	375	414	309	91	26

※貸出総冊数 4,285冊

内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学生	530	521	384	508	98	292	385	338	374	274	51	0	3,755
専攻科	3	3	4	6	1	13	2	6	8	7	0	0	53
教職員	39	56	41	31	32	64	52	31	31	28	40	26	471
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	6
合計	575	580	429	545	133	369	439	375	414	309	91	26	4,285



(4) PC 教室利用状況

PC 教室 (122 室) 利用状況

2019 年度

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
月	3～4限目	1 D	情報倫理	米山/花山	
月	5～6限目	1 C	情報倫理	米山/花山	
月	7～8限目	3 E E	創造設計	井組/吉田慧	後期のみ
火	1～2限目	5年選択	選択英語Ⅱ	真島顕	
水	1～2限目	6 A C	専攻演習Ⅰ	富田/雑賀	前期のみ
水	1～2限目	2 M E	機械加工	阿部	後期のみ
水	5～6限目	1 A	情報倫理	米山/花山	
水	7～8限目	5 C S	プレゼンテーション	須志田	前期のみ
木	1～2限目	1 E E	C A D	井組	
木	3～4限目	4 C S	プログラミング応用Ⅰ	須志田/清水	前期のみ
木	3～4限目	4 C S	プログラミング応用Ⅱ	須志田/清水	後期のみ
木	5～6限目	1 B	情報倫理	米山/花山	
木	7～8限目	3 M E	計算機援用設計	坂口/廣瀬	
金	1～2限目	3 M E	アルゴリズム理論	福岡	
金	3～4限目	4 C S	統計解析学Ⅰ	島川	前期のみ
金	3～4限目	4 C S	統計解析学Ⅱ	島川	後期のみ
金	5～6限目	3 C S	計算機概論Ⅱ	内田	後期のみ

PC 教室 (123 室) 利用状況

2019 年度

曜日	時間	クラス	科目	担当教員	備考
月	5～6限目	4 A D	自然科学概論	長尾/山本孝	
火	1～4限目	2 C S	プログラミング基礎Ⅱ	宇都木/永岡	前期のみ
火	1～2限目	2 C S	プログラミング基礎Ⅲ	宇都木/永岡	後期のみ
火	3～4限目	3 E E	情報処理	風間/宇都木	後期のみ
水	1～2限目	2 A D	情報処理	氏家	
水	3～4限目	4・5年選択	映像メディア概論B	松谷	後期のみ
水	5～6限目	5 M E	創造設計学	富田	前期のみ
木	1～4限目	1 C S	プログラミング基礎Ⅰ	内田/宇津木	後期のみ
木	5～6限目	5 C S	人工知能Ⅱ	宇津木	後期のみ
木	7～8限目	5 C S	データベース	須志田	後期のみ
金	1～2限目	3 E E	情報処理	風間/宇都木	前期のみ
金	3～4限目	5 C S	プログラミング応用Ⅲ	宇都木/大墨/村尾	前期のみ
金	3～4限目	5 C S	プログラミング応用Ⅳ	宇都木/大墨/村尾	後期のみ
金	5～6限目	5 C S	ソフトウェア工学Ⅰ	大墨	前期のみ
金	5～6限目	5 C S	ソフトウェア工学Ⅱ	大墨	後期のみ

編集後記

2020年3月にはすでに編集後記を書き終えていたが、その後続いたコロナ禍と遠隔授業実施期間を経て作業のめどがなかなか立たず、ようやく春に再度本稿を記す、というのも得難い経験である。

第9号は化学や専門各科目ご担当の教員各位の他、一般教養に相当する文学、歴史、また事務の方からも原稿をあつめることができた。

とりわけ奥山氏の手になる「私の掃苔録」は普段何かと文学に親しむことの少ない本校学生にとり大きな導きとなるものと信じている。

作家についてその墓所を訪ねるといふ文学散歩は文学探求の主要な一分野であるにもかかわらず通常取り上げられることが少なく、その意味でも貴重な原稿であり、今後の継続を期待したい。

若手の須志田、小林両氏の専攻関連の原稿には生き生きとした好奇心の弾む姿を感じることができ、今後の活躍が期待できる、などと書くのも僥越であろう。

各原稿の著者の方々からは物を考え、そこから何か感じざるを得ない迫力が伝わってきており、それこそが学問を動かす原動力というべきであろう。

そうした生気みなぎる場に十年近く身を置くことができた倖せを編集担当として改めて感じている。自分が本誌編集担当となってすでに十年近く経過したが未だ歩みは遅く忸怩たる感を拭えない。

しかし時代と社会は大きな変化のただ中にあり、このうねりは今後においてももはや途切れることはない。

うねりの中で総合メディアセンターにかかわる人々がこれとどのように対峙したのか、本誌はその一つの里程碑でもある。

理工系である工業高等専門学校のうちユニークな活動を本誌が続けられてきたことにも感謝の言葉を述べさせていただきたい。

至らぬ編集担当を支えてくださった佐藤センター長、和田センター長はじめメディア委員会各位と図書館スタッフの皆様のおかげによりようやくここにまで来ることができた。

今後本誌はどのように動いていくかはともあれ、1年遅れで第9号を送り出したい。

2021年春

総合メディアセンター報 編集担当 山館 順

総合メディアセンター報 第9号

令和3(2021)年3月31日 発行

編集発行 サレジオ工業高等専門学校 総合メディアセンター
〒194-0215 東京都町田市小山ヶ丘 4-6-8
Tel. 042-775-3020 Fax. 042-775-3021

印刷所 株式会社 芳文社
〒194-0037 東京都町田市木曽西 2-3-14
Tel. 042-792-3100 Fax. 042-792-3162